令和6年度
全国公立大学生大会
LINKtopos2024
in Iwate

「ピース」

報告書

2024年度公立大学学生ネットワーク運営学生

【2024報告書目次】

はじめに
1. 令和6年度大会プログラム
2. 参加者の対象と推移

3. 活動内容とその結果
3.1 大会1日目
3.1.1 開会式
3.1.2 アイスブレイク
アイスブレイク満足度・参加者の声
3.1.3 1日目ポスターセッション
満足度・参加者の声
3.1.4 野外炊事
満足度・参加者の声
3.1.5 1日目総括

4. 大会2日目
4.1. 震災WS「命を守るために ～東日本大震災から学ぶ～」
4.1.1 テーマ
4.1.2 企画
4.1.3 講演会（@宝来館）
4.1.4 避難経路追体験（@いのちをつなぐ未来館）
4.1.5 最終成果物作成
最終成果物（作成物一覧）
4.1.6 満足度・参加者の声
4.1.7 講演者へのお礼

4.2 魅力WS「伝統文化を残すために「今」できることを考える」
4.2.1テーマ・概要
4.2.2さんさ踊り体験
4.2.3藍染体験
4.2.4成果物作成
4.2.5満足度・参加者の声

4.3 地元WS「若者との交流による賑わい創出」
4.3.1 全体
4.3.2 monaka見学・まちあるき
4.3.3 講演会(monaka支配人大石仁雄社長)
4.3.4 課題解決型グループワーク
4.3.5 最終成果物

4.3.6 満足度・参加者の声

5 大会3日目
5.1 WS情報共有
　　満足度・参加者の声
5.2 3日目ポスターセッション
　　満足度・参加者の声
5.3 学長とのランチミーティング
　　満足度・参加者の声
5.4 閉会式
5.5 大会3日目総括

6　活動内容その他
6.1 オープンチャットの活用について
6.2 SNSの活用について
6.3 プログラム全体を通して
　プログラム全体の満足度・参加者の声
6.4 大学からの補助について
　　大学からの補助に関する参加者の声

7. 次年度以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言
8. 全国公立大学学生大会の今後の展望について
9. 謝辞
10. 公立大学学生ネットワーク運営学生　名簿

はじめに

今年も昨年度に引き続き、対面開催となりました。企画チーム専門委員の先生方をはじめ、公立大学協会事務局の皆様、岩手県立大学の教職員、学生の皆様のご協力、参加してくださった学長の方々、参加していただいた皆様のおかげで無事に大会を終えることができました。心より感謝申し上げます。

今大会のテーマは「ピース」です。ピースには3つの意味がございます。

①Peace（平和）②Piece（パズルのピース）③Peace sign（ポーズのピースサイン）

私たち運営学生はLINKtopos2024 in Iwateを通じて「岩手」を知り、改めて自身の地元に立ち返って地域のためにできることを考える機会の提供を目標とし企画を進めてまいりました。また今大会は例年と異なり、学生が学長先生方と交流する場（ポスターセッション・ランチミーティング）を設けました。学生×学生の交流で別の地域で活躍する学生を知る、学生×学長の交流で自身の課外活動に対して学長先生方より評価をいただく、”活発な交流の中で多くの学びを得る大会”の実現を目指しました。

今年で12回目となるLINKtopos2024 in Iwateは大会プログラムの企画に対して高い満足度を得た一方で運営統制などの事務的な動きに関しては満足度が低い大会となりました。参加者数は70名、参加大学数は17校となりました。以下は今回の大会に関してのまとめとなっております。LINKtoposへの理解と来年度以降のLINKtoposの活動に役立てていただけますと幸いです。

2024年度公立大学学生ネットワーク 代表

岡山県立大学情報工学部人間情報工学科3年 阪田莉子

1.　令和6年度 大会プログラム

1日目

時間	プログラム	会場
13:30-	受付	岩手山青少年交流の家
14:00-14:30	開会式	
14:30-15:00	アイスブレイク	
15:00-16:00	ポスターセッション①	
16:15-18:15	レクリエーション(野外炊事)	
18:15-18:35	諸連絡	
18:35	解散	

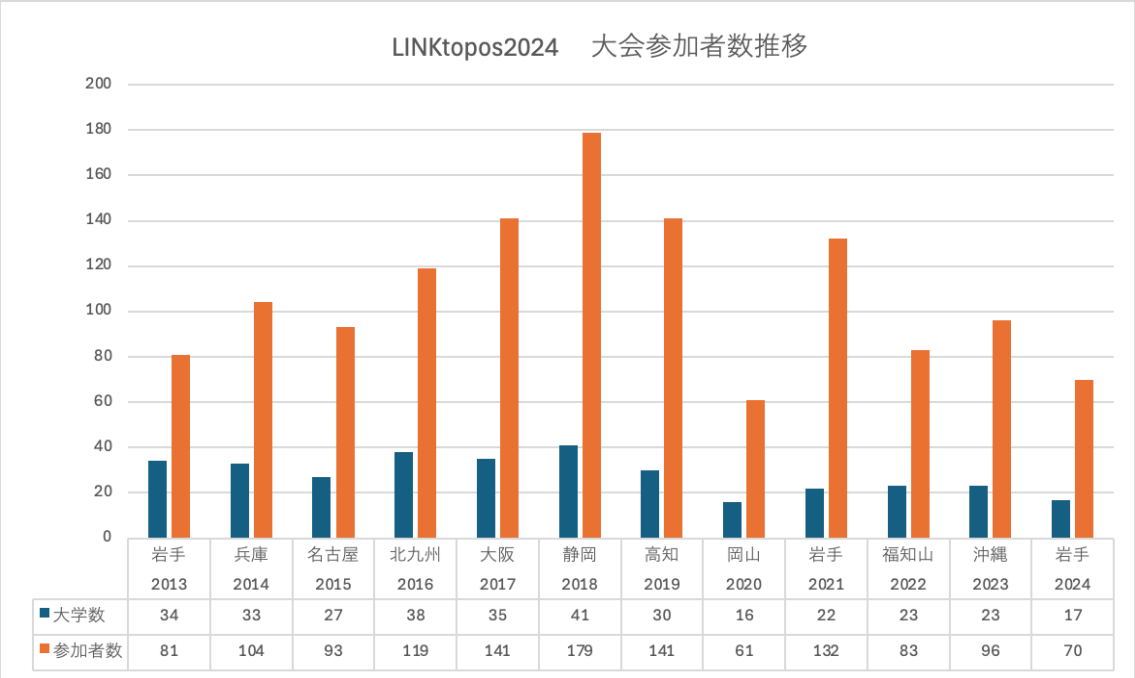
2日目

時間	プログラム	会場
開始時間	震災：7:50交流の家 8:40盛岡駅 魅力：7:20盛岡駅 8:05交流の家 地元：9:00交流の家 9:45盛岡駅	バス発車時間になります 遅刻のないようお願いします。
	ワークショップごとに活動	
解散時間	震災：18:30 交流の家 19:20盛岡駅 魅力：17:15 交流の家 18:00盛岡駅 地元：17:35 県大発 17:45 交流の家	解散時間は各自異なります

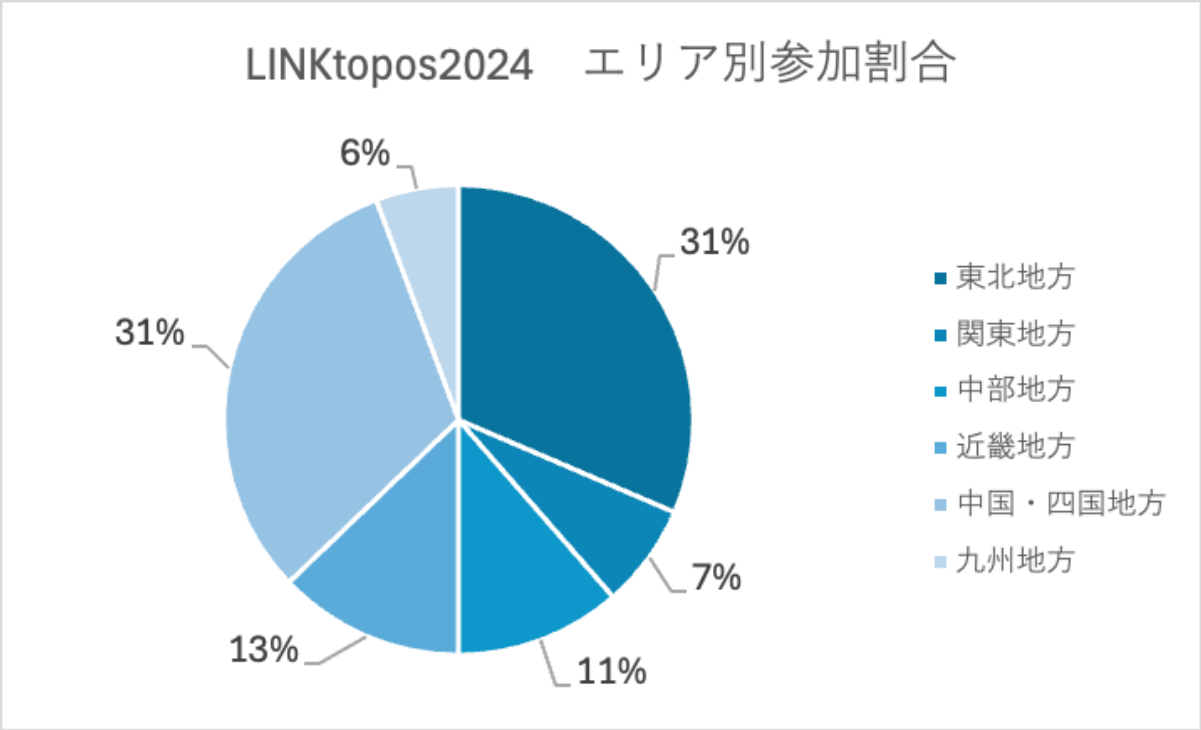
3日目

時間	プログラム	会場
8:30-9:00	受付	岩手県立大学 滝沢キャンパス
9:00-9:30	諸連絡	
9:30-10:15	ワークショップ情報共有	
10:15-11:30	ポスターセッション②	
11:30-12:15	学長とランチミーティング	
12:15-12:45	閉会式	
12:45	解散	

2.　参加者の対象と推移



	岩手 2013	兵庫 2014	名古屋 2015	北九州 2016	大阪 2017	静岡 2018	高知 2019	岡山 2020	岩手 2021	福知山 2022	沖縄 2023	岩手 2024
大学数	34	33	27	38	35	41	30	16	22	23	23	17
参加者数	81	104	93	119	141	179	141	61	132	83	96	70



3.　活動内容とその結果

3.1　大会1日目

3.1.1 開会式（@岩手山青少年交流の家）

【LINKtopos2024運営　福知山公立大学　清水彩華】

◎概要

　開会式は、LINKtoposの概要、今大会のテーマ・目標、開催校岩手県立大学の役重先生からのご挨拶、岩手山青少年交流の家の方からのお話、企画委員の先生方の紹介、事務連絡の順番で行った。

◎成果

　本番当日、急遽参加された方や、開会式に遅れることになった学生の対応を情報共有を行いながら、臨機応変に対応できたこと。開会式は遅れたが、アイスブレイク班の方たちが時間短縮を行ってくれたため、予定時刻に近い時間で開会式を終えることが出来た。

◎課題

　予定時間を5分で予定していたお話や紹介がタイムオーバーしていたので、参加学生の前で話してもらう人には目安何分で話してもらうよう詳しくお伝えしておくことが大切だと感じた。また、情報共有の漏れを防ぐため運営学生自身がメールで直接情報を共有することが大切であると感じた。

3.1.2 アイスブレイク

【LINKtopos2024運営　福知山公立大学　前田海翔】

◎概要

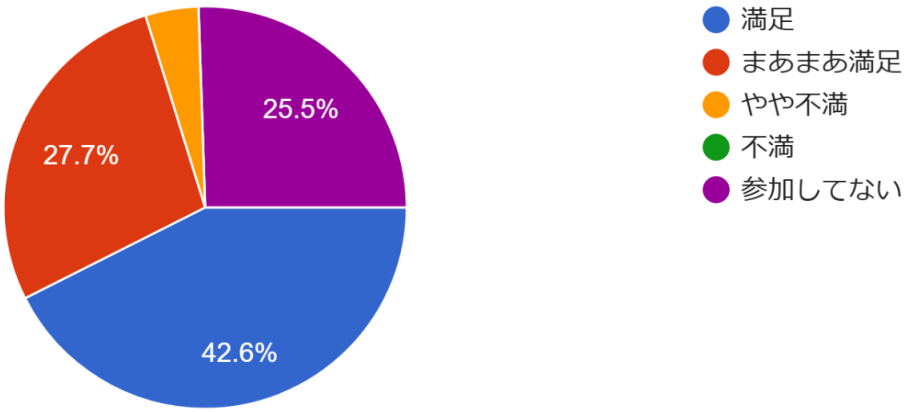
　大会初日の参加者に対し、緊張を緩和し以降の活動におけるコミュニケーションを円滑に行うことを目的として、自己紹介を兼ねて簡単なゲームを行った。企画したゲームは、参加者それぞれの地元に関する紹介の要素も含めた「ウソ・ホントゲーム」、今回のLINKtoposの開催地となった岩手県に関する単語を用いた「ワードウルフ」の2つである。尚、当日は開会式の時間が後ろ倒しとなり、調整のため「ワードウルフ」を省き自己紹介と「ウソ・ホントゲーム」を実施した。

◎成果

　参加者を対象としたアンケートから、概ね目的としていた緊張の緩和とコミュニケーションの円滑化は果たせたと感じる。具体的には、「参加者の地元について知ることができた」「参加者同士が仲良くなるきっかけとなった」「想像より盛り上がった」といった声を頂いた。成果については、あくまでLINKtopos2024の参加者各自の協力によって得られたと考えられる。

◎課題
　結果的に当日は省略となったが、「ワードウルフ」にしようする道具の用意が開催時刻の直前となってしまった。また、参加者を対象としたアンケートからは「時間が足りなかったパート」と「時間が余ったパート」があるとの声を頂いたため、参加者の立場で必要となる適切な時間配分について熟考する必要があったように感じる。

アイスブレイク　満足度・参加者の声
【LINKtopos2024運営　新見公立大学　池本花梨】



　47名の回答のうち、満足と回答したのは20名（42.6%）、まあまあ満足と回答したのは13名　(27.7%）、やや不満2名（4.3%）、参加していない12名（25.5%）という結果になった。

◎参加者の声
【満足】
・やったことないゲームだったのでとても面白かった。会話が広がり、お互いのことを知るきっかけにも繋がったことから、とても有意義だったと感じた。
・ゲームを通して、自分の地元の良さを伝えたり、自分で思い返す貴重な機会だったので、楽しかったです！
・嘘ほんとゲームを考えるのが少し難しかったですが、ゲームをきっかけに地元トークが出来、楽しかったです。
・初対面の人と話を広げられるようなアイスブレイクでとても話を繋げやすかった。もう少し多くの時間が欲しいと感じた。

【まあまあ満足】
・地元をオススメできた点はよかったが、前の時点でグループで話す時間が多かったため、全体の時間が押していたのならば省略してもよかったと思います。
・内容が面白かった。最初にたくさんの人と話せる時間があるといいなと思った。
・その時の状況に合わせて柔軟に対応している点が良かったと感じた。しかしながら、逆に言ってしまえば少し時間が短かった。

・お互いのことや地域について知ることができたのはよかったです。去年のようなゲームも取り入れるとさらに場があたたまると思います！
・筆記用具が必要だと教えて欲しかったです

【やや不満】
・時間が短すぎたと感じた。野外炊事も早い時間に終わることができたのでもう少し余裕を持ったスケジュールでも良いと思った。
・人見知りをする人がおらず、話しやすかった。全員優しくて、こういう活動に参加する人が集まったからかすぐに打ち解けることができた。
・スマホを使って自分の出身県や大学の場所、アイスブレイクの出題の際に使った果物の生産量等のデータを見せてくれた。

3.1.3 1日目ポスターセッション

【LINKtopos2024運営　岡山県立大学　藤井大樹】

◎概要
　本大会では、1日目と3日目にポスターセッションを行った。1日目は参加学生同士の交流、3日目は学長への活動の紹介を目的とした。趣旨説明、セッション①、セッション②、今後の案内、フリートークの順に行う予定であったが、開会式の時間が後ろ倒しになったためフリートークは実施せず、参加学生1人の感想を聞くことで代替とした。聞き手は感想や質問を付箋に書くことで、フィードバックとした。

◎成果
　自身の活動を紹介しつつ、他の参加者の活動も知ることができ、参加者同士の交流が一層深まる場となった。多くの聞き手が集まった団体では活発な意見交換が行われていたが、聞き手が少ない団体も見受けられた。

◎課題
　ポスターセッションの時間が1時間と短かったため、セッションが2回しか実施できなかった。発表する参加者は1回しか他の団体の発表を聞くことができなかった。また、どんな団体があるのかを事前に告知していなかったために、どこの団体の発表を聞きに行けばいいのか迷う参加者が多くいた。さらに、ポスターを自分で印刷して持参する形式をとったため、開始直前までポスターが揃わず、準備で混乱が生じた。

1日目ポスターセッション　参加者の声・満足度
【LINKtopos2024運営　岡山県立大学　藤井大樹】

◎参加者の声
【良かった点】
・いろんな団体の活動を知ることができ、また団体の方と交流することができたので良かったです。

【改善点】
・できれば複数のポスターセッションを見れるようにもう少し時間を増やすか、ポスターだけでも資料で配って欲しかったです。
・自由にみられたのはよかった。ただ、発表のある人は自分のポスターの前から離れづらく、他のポスターを見ることが難しかった。
・時間が短すぎて他大学の活動を全然聞けなかったのが残念だった。7分と聞いて話す内容を決めていたのに直前に変更があり難しい部分もあった。

◎満足度
　いろんな団体の活動を知ることができ、他団体の方と交流することができたことがよかったという声があった一方で、時間が短く十分にポスターを見ることができなかったという声も多かった。

3.1.4 野外炊事
【LINKtopos2024運営　長野県立大学　八重樫海斗】

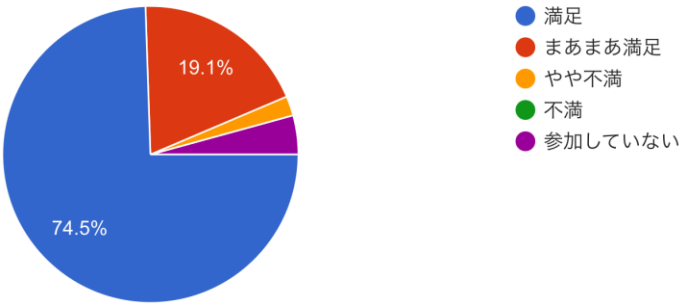
◎概要
　1グループ6～7名で班構成をし、青少年交流の家・野外炊事場にて各グループごとに焼きそばを作った。学生間交流を行い、学生同士の仲を深め、今後の活動をより意義のあるものにする目的を持ち、岩手の自然を楽しみながら活動をすることで、岩手についての関心を深めるために行った。

◎成果
　1日目の最終活動として行った野外炊事であったが、それぞれで協力しながら1つのことを行うことによって参加者同士の交流が深まるきっかけとなった。また、お互いの出身地や住んでいる地域について交流を図り、関心を高めることにもつながった。

◎課題
　全体的な時間が短く、交流するための時間が少なくなってしまった。また、片付けについて計画がうまく組めておらず時間がかかってしまった。事前の準備量など必要な活動量が多く、運営にかかる負担が大きかった。

野外炊事　参加者の声・満足度
【LINKtopos2024運営　長野県立大学　八重樫海斗】

5. 1日目の野外炊事はいかがでしたか。
47 件の回答



◎参加者の声
・小学生ぶりの野外炊事でとてもワクワクしました。何かを一緒にしながらだと、チームでの親睦も深まり、素敵な時間になりました。
・みんなで協力してひとつのことに取り組むと自然に会話が進んだ
・とても美味しかったですし、仲も深まったと思います。焼きそばの量が少なかったのが少し残念でした。
・野外炊飯の焼きそばの量が少なく、交流の家での購入もできなかったため、夜とてもお腹がすきました。
・時間管理が甘く、最後の方がバタバタしていた。
・　軍手やマッチを最後にどこに行くかなどの共有がされていなかった。
・私たちの班のかまどが半分壊れていて使っている際に倒れそうで怖かった。次からは事前に壊れていないかチェックしてほしい。

3.1.5 1日目総括
【LINKtopos2024運営　福知山公立大学　清水彩華】

当日に急遽参加された方や2日目に帰宅する方が出てくるというハプニングが発生したが、役職メンバー、運営学生と情報共有を行い、役割分担をしながら様々な事態に対応できたと考える。会場設営や開場片付けなど効率的に行うことが出来たのではないかと考える。ただ、開会式やポスターセッション、野外炊事など全般に言えることは運営学生が前で話しているときに、参加学生が話を聞く体制になれていなかったことだ。マイクを使用していたが、楽しさが勝ってしまったのか中々参加学生の情報を伝えきれなかったように感じる。
また、運営学生内でも情報共有をしっかりと行えていなかったためそこは改善していく必要があると考える。

4 大会2日目

4.1 震災WS「命を守るために ～東日本大震災から学ぶ～」

4.1.1テーマ

【LINKtopos2024運営 三条市立大学 菊田 大亮】

「命を守るために ～東日本大震災から学ぶ～」

4.1.2企画

【LINKtopos2024運営 三条市立大学 菊田 大亮】

◎概要

東日本大震災の被災地である岩手県沿岸部に行き、被災者の方の声を聞いたり、実際の避難経路の追体験をすることで、自然災害の恐ろしさを肌で感じ、自分の大学や地元に帰った際にどのような行動をすればよいのか、またどのような災害への備えができるのかを実際の被災地から考える目的で行った。

◎成果

宝来館では、津波の被害にあいながら旅館を避難施設として住民の方に開放し、安心できる場所を提供された元女将の方の話を聞いた。津波避難の追体験では後に「釜石の出来事（釜石の奇跡）」と呼ばれるようになった避難路を実際に歩き、命を守るための行動を体験した。最後の成果物発表ではその日学んだことを参加学生同士が再度共有して、自分たちでどのようなことができるのかを考えてもらい発表した。

◎課題

WS全体を通して時間に追われていた印象だった。最終的には時間内に帰ってくることができていたが、もう少し時間に余裕を持ったスケジュールを考えたいと思った。また、宝来館では津波の映像が流れていたので配慮が必要であったと感じた。

4.1.3 講演会（@宝来館）

【LINKtopos2024運営　新見公立大学　平松萌々子】

◎概要

釜石市鵜住居町にある宝来館で、昼食をいただきながら元女将の岩崎昭子様から震災発生直後の混乱や避難所の状況、実際に震災を経験しての思いをお聴きした。当時の映像も流していただき、震災の恐ろしさを身をもって感じる機会ともなった。

◎成果

当時何が出来て何が出来なかったのか等の話や、震災という大きな困難な状況の中でも元女将の周りの人への接し方や課題を解決するための行動等から多くの学びを得た。災害時に

起こることを想像し何ができるか考え行動へ移していくことが普段の私たちにできることだと考えることができた。

◎課題
　講演を聞く際の席割りを考えておらず、到着から着席までやや時間がかかった。事前に配置やアレルギーのある人の席を聞いて席割りをしてスムーズな移動となるよう努めるべきだった。また、当時の震災直後の津波の映像を見ながら昼食をいただくこととなったため、心苦しい気持ちになった参加学生もいた。時間にゆとりを持たせたスケジュールにすればよかったのではないかと考える。

4.1.4 避難経路追体験（@いのちをつなぐ未来館）
【LINKtopos2024運営　新見公立大学　平松萌々子】

◎概要
　いのちをつなぐ未来館で、当時釜石東中生で実際に津波から逃れた語り部の川崎杏樹様から、震災時の状況や行動、その時の思いをお聴きした。震災前に地域や学校で行われていた避難訓練の実際に起きたことについてもお話ししてもらい、意味のある避難訓練の重要性について学んだ。避難経路を歩いて追体験を行い、津波の脅威や垂直避難をすることの大切さを目の当たりにし、津波から命を守る行動について考えることとなった。

◎成果
　被災地である岩手でしかできない追体験をすることができ、よい経験となった。当事者の声はとても心に響き、参加学生からは「実際に被災された方の生の声を聞くことはなかなかない機会で、身にしみたとともに自分ができることを考え行動していこうと思った。」との声が挙がった。災害を自分事として捉え、今回学んだことを周囲の人や地域へ伝播するきっかけとなったと考える。

◎課題
　追体験の際は日差しが強く気温も高くなっていたため、帽子の持参を呼びかけておけばよかったと考えられる。追体験では道路を横断することがあり、よりまとまって移動できればよかったのかもしれない。

4.1.5 最終成果物作成
【LINKtopos2024運営　北九州市立大学　宮井建】

◎概要
　釜石市合同庁舎にて、宝来館での元女将からのお話、鵜住居トモス、いのちをつなぐ未来館にて学んだこと、語り部の川崎杏樹様の解説を聴きながら実際の避難路を歩いた追体験から感じたことなどを4チームに分かれ1枚の模造紙にまとめる活動を行った。構成する3、4人のメンバーの出身地（大学所在地）において実際に地震などの自然災害が発生した際、大学

生として、また釜石（岩手）の地で震災学習を経験した者としてどのような対策、行動をするのか、話し合いを通し考えた。成果物作成後、各班全体の前で発表を行った。宝来館の元女将の方にもお越しいただき、発表を聞いていただいた。

◎成果

「参加学生の各関係地域において実際に被災した場合、大学生としてどう動くべきか」を考えることを最大の目標としていたが、事前のフィールドワークや講演にて被災された方の生の声に触れたことで、より深い成果物、学びが得られた。WSに参加いただいた先生方にもコメンテーターとして参画してもらうことで学術的観点からのフィードバックも得ることができた。グループワーク形式を取ることで参加学生間での交流も促進できたと感じる。

◎課題

時間の管理に課題が残ると思う。参加学生に残りの時間を知らせるためのアナウンスを都度入れたり、タイマーを会場に設置したりするなどの工夫が必要だと感じた。限られた時間（施設の利用時間や帰りのバスの所要時間を踏まえ）の中で効率よく運営するために事前に確認事項の共有やアナウンスを徹底するべきだった。最終成果物作成における完成イメージ図の共有や具体的にどのような内容を記載して欲しいのか、構成やデザインはどのように検討すればいいのかといった指示が特に不足していたように思う。オープンチャットをWS単位で作成するのも１つの手段だったと感じる。また各自が記入した付箋を添付し資料を作成してもらったが、発表の際、文字が小さく見えなかったという課題もある。今回は会場設備の兼ね合いで難しかったが、スクリーンに投影して見やすくするような工夫も必要だと感じた。

最終成果物（作成物一覧）

【LINKtopos2024運営　北九州市立大学　宮井建】

◎概要

釜石市合同庁舎にて4チームがそれぞれ作成した最終成果物を次ページにまとめる。

A班 震災WS 釜石市フィールドワークを終えて

稲泉光、金井実佑乃、久世樹沙、是枝伊吹
岩手県立大学 長野県立大学 新潟県立大学 福知山公立大学

〈宝来館の女将さんのお話を聞いて〉

① 「3分で船で避難する」という風習
家族か船かで船をとる→家族をとった方が良かった。
→ なにが一番大切なのか、優先順位をシュミレーションする。

② 防潮堤や防災センターが津波で壊れた。
→ 構造物は壊れる前提で考える。

女将さんの想い
③「人の命を守るとともに三陸の風景を守っていきたい」
「来るものは来るけど、人は生き続けるし越えられるから」

〈命をつなぐ未来館訪問 追体験を通して〉

① 避難所：災害時の一時的な拠点
避難場所：災害時に命と安全を確保する場所
⇒認識の違いを無くす

② 恐怖は続かない
⇒楽しい防災学習

③ 合同での訓練や地域住民からの情報提供
⇒地域全体での連携の重要性

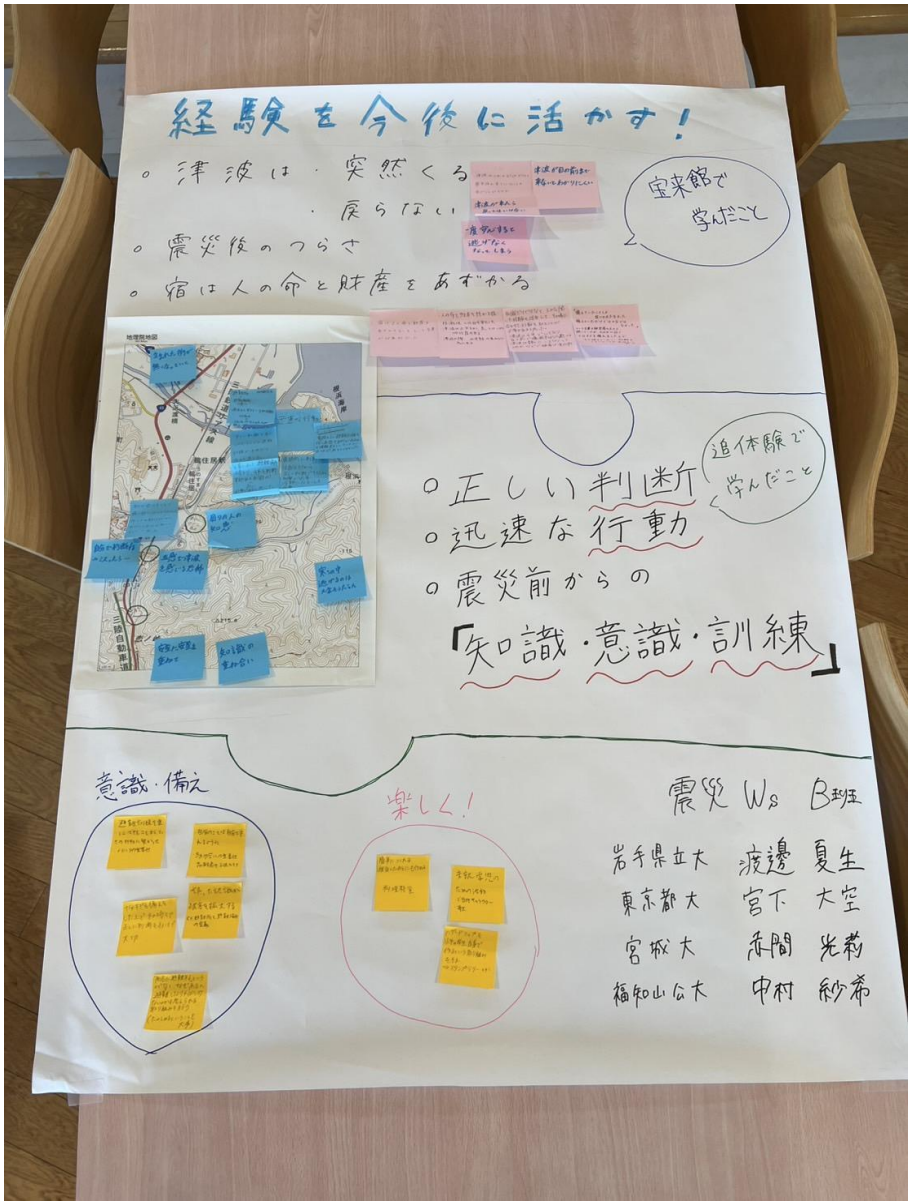
岩手県盛岡市
地震が起きたら… 事前にハザードマップを把あくし、自分で考えて避難訓練をする。起きたら、周りに合わせるのではなく、自分から避難する

長野県駒ヶ根市
水害による土砂・台風… 避難経路、避難所を正しく把握する。自分の命を守ること、生きることを最優先にする

鹿児島県薩摩川内市曽瓦島(こしきしま)
台風・侵水・火山 …島だから、歳だからではなく皆で希望を持って防災意識を高める必要性がある。

愛知県豊川市
地震・津波 … 地震・津波は必ず来ることから、怖いということだけを考えるのではなく楽しみながら地域とともに対策をすることが大切

皆で考えたこと ダークツーリズムの促進 ・戦争や災害について観光を通して学ぶこと、それらをともなう観光の



「生きる」って難しい

家族
構造物
地域
女将さん
津波

- 地域コミュニティの存在
- 家族間の伝承
- 津波の恐ろしさ
- 構造物のメリット・デメリット
- 女将さんの想い

経験

宝来館、女将さんの話を通じて

地理院地図 いのちをつなぐ未来館 逃げ験

1. 小学校 海抜2m
生徒が自主的に整列・点呼

2. ございしょの里 海抜4m
地域とのつながり

3. やまざきデイサービス 海抜15m
地域の人が約100人一時的に避難
我々ほぼ安全

3〜4
各々の判断で少しでも高いところへ逃げる

4. 恐の峠
海抜44m
傾斜が急

○都市直下型・南海トラフに備えて

①地震のメカニズムの理解
→津波・地震について理解を深める。

②避難訓練の実施
→本番想定・楽しい"を取入。

③正しい知識
→高台に逃げる・戻らない

震災WS C班
角田 紫穂(横浜市立大学)
岩井 千秀(宮城大学)
恒吉 心桜(福知山公立大学)
堀井 達哉(慶應義塾大学)

全国に学びを伝播させる

〜釜石市鵜住居地区の見学を通して〜

学び→行動
思い
伝える

- みんなが正しい知識をもって行動
- 得た学びを周りに伝えていく
- リアルな思いに触れた

教育
今後への伝え方
訓練
知識

- 知識を得て、共有し、「考える力」を身につける
- 訓練で想定外に対応できるように
- 今後、人々が命を守れるように伝える

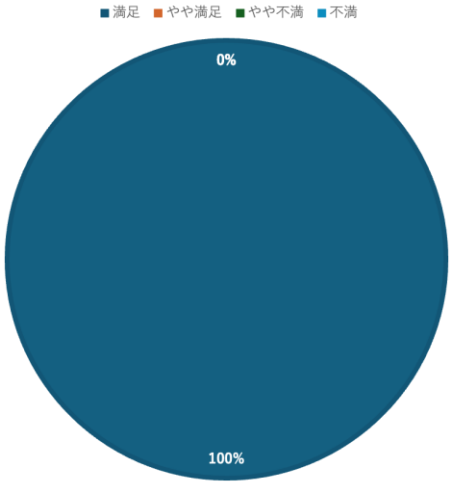
知る
実践

- 正しい知識や防災情報の把握
- 周囲に伝えていくこと
- 自分事にして地域を巻き込み行動

震災WS Dチーム
山口県立大 多賀 春香
横浜市立大 村上 咲希
岩手県立大 佐々木 麻衣

4.1.6 満足度・参加者の声

【LINKtopos2024運営　北九州市立大学　宮井建】



8. 7でWS1震災とお答えした人にお聞きします。WSの活動はいかがでしたか。
※上記設問に対する回答は13名（先の震災関連の設問には14名が回答）

◎概要

閉会式にて回答を依頼した参加学生・教職員を対象にした「事後アンケート」の回答を見てまとめる。震災WS関連の項目を見ると計14人の方に回答いただけた。

◎成果

回答いただいた14名の内、WSにおける満足度を問う質問「8. 7でWS1震災とお答えした人にお聞きします。WSの活動はいかがでしたか。」に対し、13名が回答。13名全員が「満足」と回答してくれた。（100%満足回答）

その中のコメントを抽出すると、「実際の被災地に訪れ学習するという貴重な経験ができてよかった。」というものや「被災者の生の声ほど心に響くものはないと感じた。」というものが目立った。東北出身（山形県）の参加学生は当時小学生で震災を経験した時に感じた思いと大学進学以後の学び、WSでの経験を多角的に分析し、今後起こりうる大規模災害等に対しての危機感を高めるとともに若い世代に求められる動きや役割を詳細まで分析してくれていた。参加学生各自の出身地、大学所在地において災害が発生した場合どう対応するのか、地域に生きる若者としてどのように地域に貢献するかという点を深く考えてもらえた機会になったと思う。

◎課題

WSの企画内容や実際の活動に関するものに関しては概ね満足（高い評価）を得ることができたが、事前準備等の細かい部分に関する指摘が見受けられた。バスの座席（運営学生も前に固まるのではなく一緒に座りたかった）、道中トイレ休憩における時間配分（お土産購入や軽食を買うのに時間がやや不足している）というものがあった。

また宝来館にて元女将の話を聞きながら食事を摂るという行程において、食事中に津波の映像が流れたことにやや不満を覚えたという内容もあった。心理的ショックを与える可能性があるコンテンツの取り扱い方には細心の注意を払う必要があると感じた。

4.1.7 講演者へのお礼

【LINKtopos2024運営　兵庫県立大学　田尻翔吾】

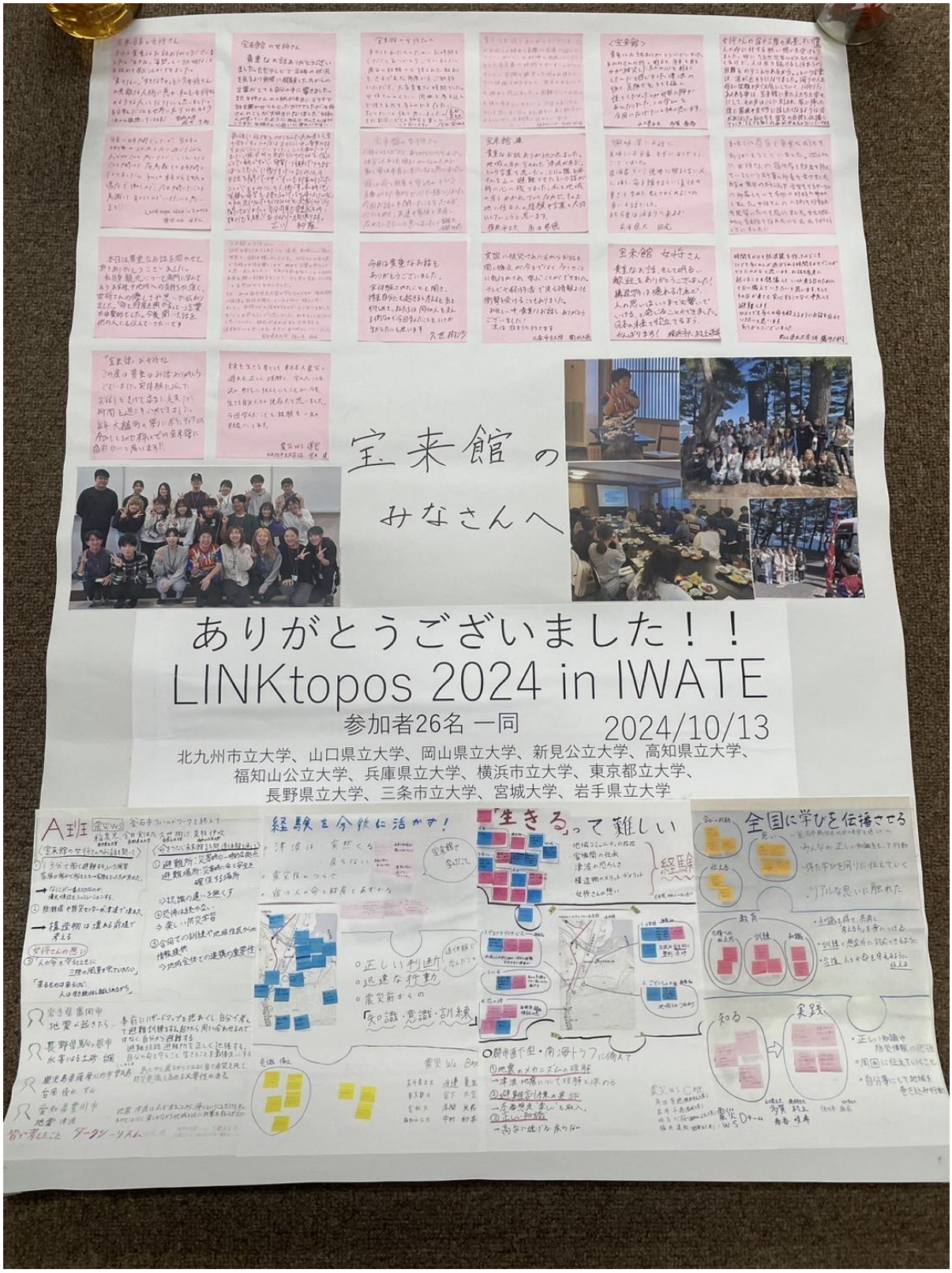
◎概要

　講演者である宝来館、いのちをつなぐ未来館の方々に対するお礼をする時間を充分に確保できなかったことから、ワークショップ終了後、参加者全員に対し付箋を配布、講演者の方々に対するお礼を書いてもらい、3日目受付時に回収した。

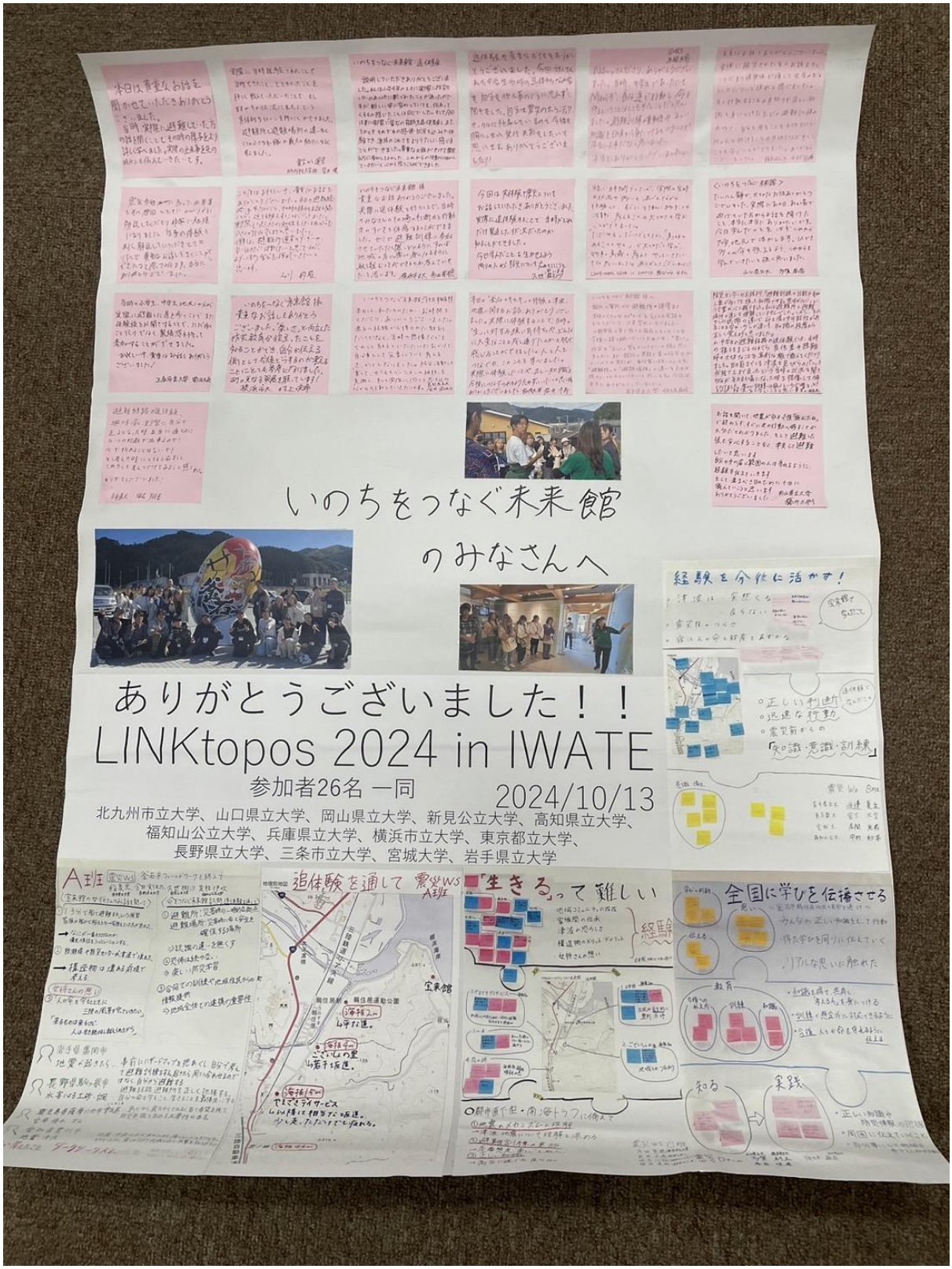
以下はそのお礼をまとめたものである。

　お礼を書いた付箋をまとめるにあたっては、岩手県立大学の杉安和也先生に、また宝来館及び、いのちをつなぐ未来館へ届けるにあたっては岩手県立大学学生支援室の松崎雄一氏にご協力いただいた。

◎宝来館の方々へのお礼


宝来館のみなさんへ
ありがとうございました！！
LINKtopos 2024 in IWATE
参加者26名 一同
2024/10/13
北九州市立大学、山口県立大学、岡山県立大学、新見公立大学、高知県立大学、
福知山公立大学、兵庫県立大学、横浜市立大学、東京都立大学、
長野県立大学、三条市立大学、宮城大学、岩手県立大学
経験を今後に活かす！
「生きる」って難しい
全国に学びを伝播させる

◎いのちをつなぐ未来館の方々へのお礼



4.2　魅力WS　「伝統文化を残すために「今」できることを考える」
～岩手を知って地元をもっと好きになる～

4.2.1 テーマ・概要
【LINKtopos2024運営　岩手県立大学　名取巧翔】

◎概要
　LINKtoposの始まりの場所である岩手県で伝統文化を体験することで、自分の地元にあるものを将来へ残すために自分ができることを考えるきっかけを作ることを目的として、企画を行った。具体的には、岩手県の民俗芸能「さんさ踊り」の体験や、「盛岡手づくり村」にある工房「染屋たきうら」での藍染体験などを実施した。一日の体験を通して得た学びを踏まえて、さらに参加学生それぞれが地元へ持ち帰れるような知見に繋げるために成果物作成を行った。

◎成果
　さんさ踊り体験では、参加学生が伝統文化の継承を自分事と捉えるきっかけを作ることができた。また、藍染体験では、事前に基礎知識を共有して作業を円滑に終えたあと、お土産などを見る時間を設けることで岩手県の伝統文化の魅力に触れる機会も作ることができた。体験後の成果物作成では、自分の地元の伝統文化を残していく方法を参加学生それぞれに考えてもらった。

◎課題
　ワークショップ全体を通して、時間の配分をもう少し検討しておくべきだったと感じられる場面が散見された。また、運営学生がワークショップに込めた意図がなかなか思うように実現しなかったり、参加学生に伝わらなかったりするようなこともあった。参加学生が楽しんで体験をできるような場を作りつつ、着実に学びへと繋げられるほど十分な時間を確保することに困難が感じられた。

4.2.2 さんさ踊り体験
【LINKtopos2024運営　高知県立大学　麻岡里光】

◎概要
　岩手県の伝統文化であり、盛岡市を代表する祭りの一つである「さんさ踊り」について知り、理解を深めるために岩手県立大学のさんさ踊り実行委員会さんにご協力いただき、さんさ踊りの披露から簡単な紹介、踊りと太鼓の体験を行った。開催地岩手県の伝統文化に親しみを持てるきっかけを作れたことで、参加者自身がそれぞれの地元の地域文化や地域で引き継がれたてきた伝統文化とリンクさせて祭りや文化の継承方法や保存について考える時間を創ることができた。

◎成果
　岩手県並びに盛岡を代表する伝統文化であるさんさ踊りの文化に触れるきっかけを作り、文化継承のために活動をする同年代と交流ができたことは参加者にとっても伝統文化継承を自分事と捉えるきっかけとなった。また、伝統文化を体験しながら同世代の文化継承に奮闘する学生と交流をすることで、自分たち若者世代が地域の伝統文化を継承していく役割を担うことをより具体的にイメージできた。

◎課題
　さんさ踊り実行委員会の方と事前に打ち合わせをしてはいたものの情報共有不足でお互いの認識にズレが生じ、当日想定時間に合流することができず、慌てた。参加学生をお待たせしてしまったり、さんさ踊り実行委員会さんにもこちらの慌て具合が伝わって不快な思いをさせてしまったかもしれない。次大会以降は時間に関する確認は十分すぎるくらいしておいた方が良いと思った。また、参加学生からさんさ踊り体験1時間の時間配分が20分になったことを指摘されたが説明・体験・総踊り込みで1時間配分だったことがきちんと伝わっていなかったのかもしれないと思ったため、最初にきちんと説明すべきだった。また、プログラム表記方法を考える必要があると感じた。

4.2.3　藍染体験
【LINKtopos2024運営　高知県立大学　麻岡里光】

◎概要
　ものづくり文化が多く存在する岩手県の文化の一つである藍染を盛岡手づくり村にある「染屋たきうら」さんで体験させていただいた。岩手県の藍染体験は、科学染料の普及で廃れた昔ながらの藍染の技法を今に伝えている特徴があることなど、体験をしながら説明を聞くことができた。約60分の体験でハンカチサイズの藍染体験を行った。

◎成果
　岩手県立大学滝沢キャンパスからの移動中に藍染経験のある運営学生が藍染に関する基礎知識の共有を行い、デザイン案を考えながら移動してもらったことで作業時に手際よくデザインができていた。また、少し早めに体験会場に着いたためお土産物屋などを見れるフリー時間を設けることができたため、大会終了後にすぐ帰らなければいけない参加学生などにも岩手開催の大会を楽しんでもらうことができた。運営学生も参加学生と共に活動をしたことで参加学生との交流もできて楽しめた。

◎課題
　LINKtoposは遊びの場ではなく、学びや交流の場であることを分かってはいたものの、せっかく岩手に来て、土産品を楽しんだり、フリー時間がないのも寂しいような気がして時間に余裕があったためお土産も見れるフリーの時間を作ったが、結果的には大事なフィードバックの時間が予定通りの開始だったけど、時間が足りなかったように感じたので、藍染体験でのフリー時間はもう少し冷静な判断が必要だったのではないかと思う。楽しんで欲しいという気持ちと大会の意味の駆け引きが難しかった。

4.2.4 成果物作成

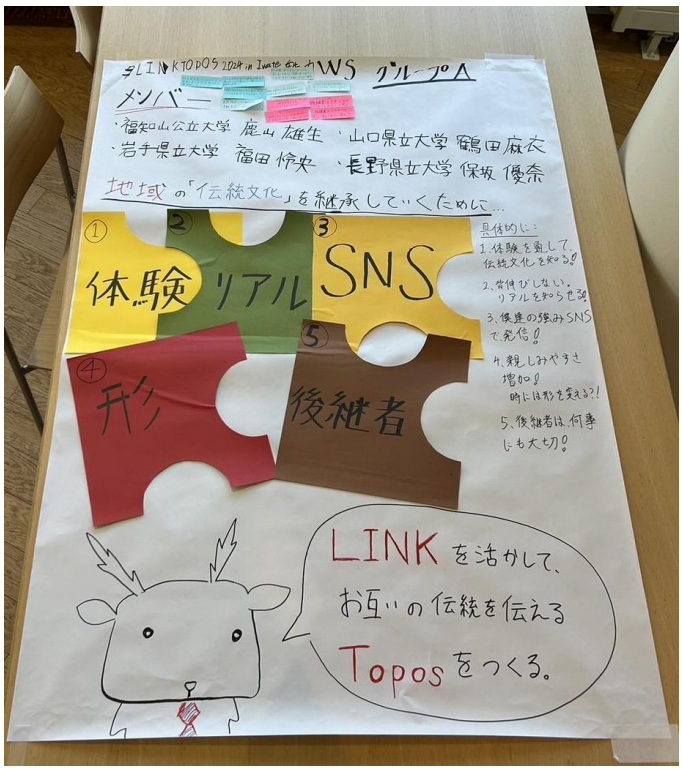
【LINKtopos2024運営　高知県立大学　麻岡里光・新見公立大学　池本花梨】

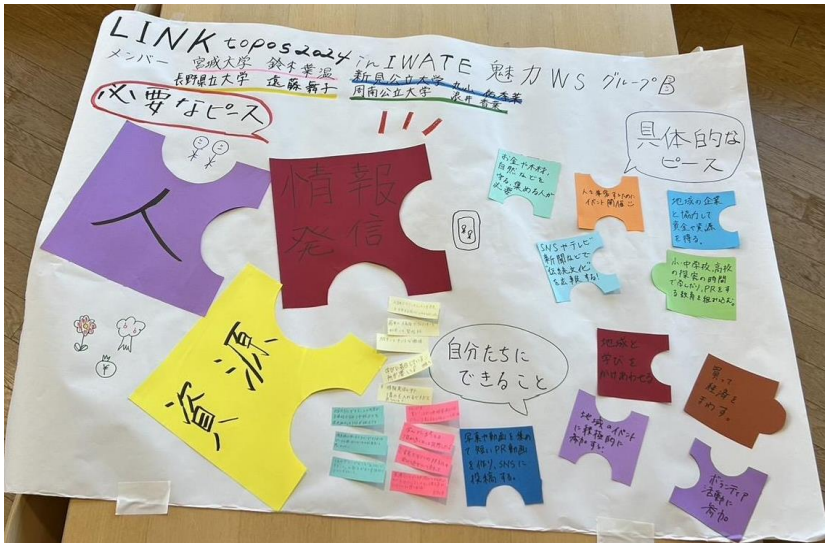
◎概要

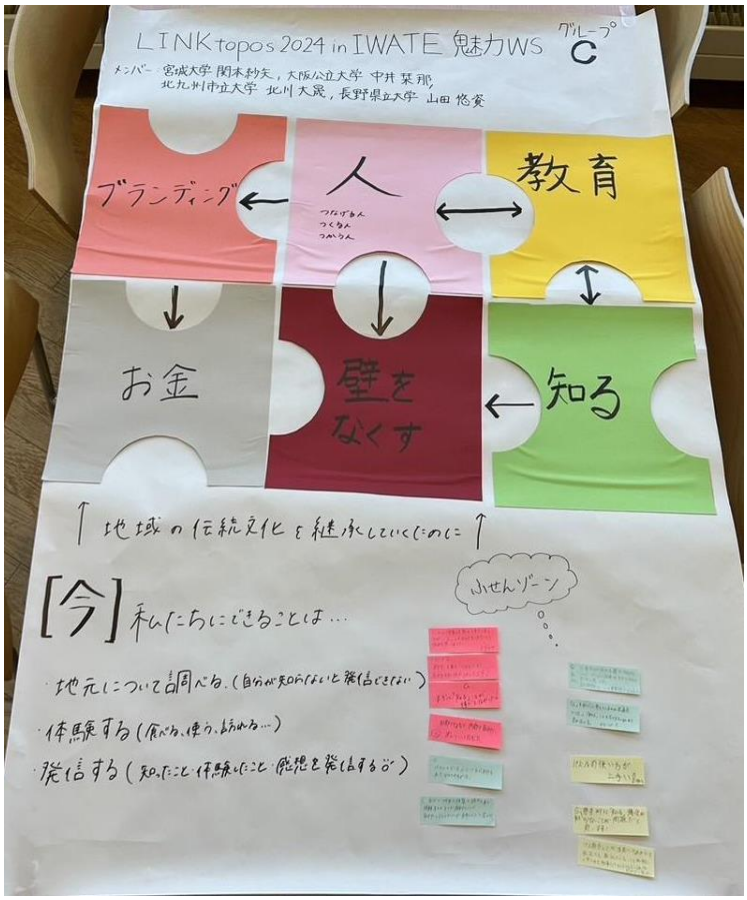
本WS内で体験したこと、学んだこと、地元に持って帰りたいと思ったことをまとめ、魅力WSという本大会における一つのピースから各々が学んだことをインプット・アウトプットする時間を設けた。自分の地元にある伝統文化や魅力などに対し、それらが失われていかないように、今から自分たちにできることを考えてもらった。本WSを通して学んだり感じたりしたことを元に、自分の地元に置き換えた時に伝統文化を残すために自分にできると考え、事前に運営が用意したパズルのピースの形になった紙に書き出してもらった。大会テーマに結びついたフィードバックとなり、各班の個性が魅力として見受けられた。

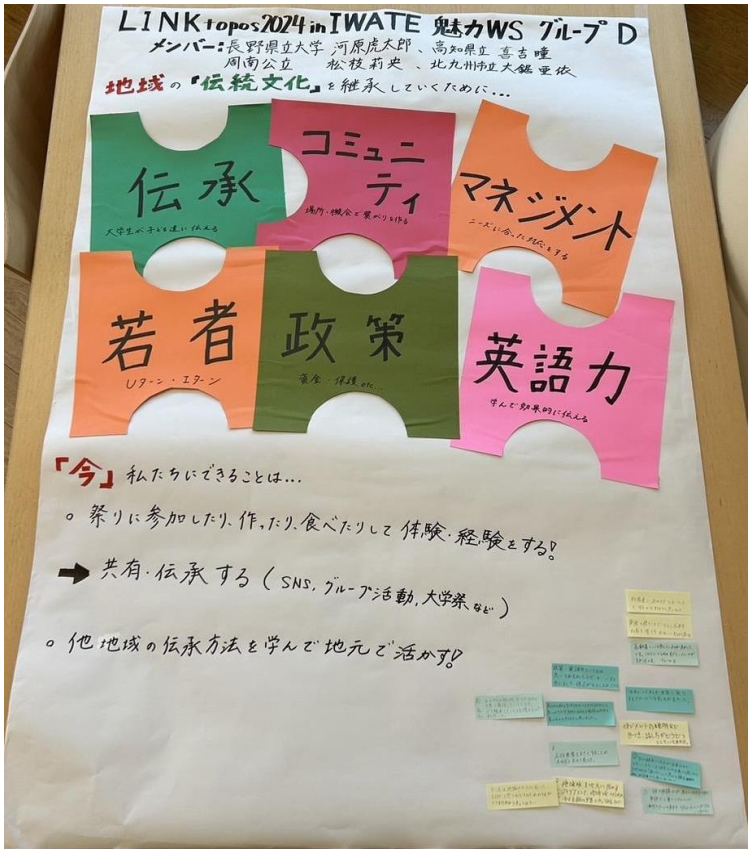
◎成果

まず最初に個人ワークとして、自分の地元の伝統文化に焦点を当ててそれらを継承し、残していくために必要なピースと具体的にどのようなピースが必要なのかを考えてもらった。それぞれの地元特有のものから人や情報発信を必要なピースにあげる学生も多くいた。また、交流や資金を必要視する学生もおり、全国から集まった学生それぞれの独自の発想が展開され、互いに意見交換し刺激し合う様子が見てとれた。後半のグループワークでは、個人ワークを元に地域を定め幅広い視点で見た時に地域を定めずとも共通して地域の伝統文化を残すために必要だと思われるピースについて考えてもらった。さらに、そこから「今」自分たちにできることは何かを考えてもらい、ただ必要なことだけをピックアップするだけではなく、課題を自分事と捉えるフィードバックを行った。以下に４グループの成果物を参照する。




LINK topos 2024 in IWATE 魅力WS グループB
メンバー 宮城大学 鈴木葉湖
長野県立大学 遠藤舞子
新潟県立大学
周南公立大学
必要なピース
人
情報発信
資源
具体的なピース
地域の企業と協力して資金や資源を得る。
小中高校、高校の探究の時間で地域の課題を教育を振れる。
地域と学校を結びあわせる
地域のイベントに積極的に参加する。
ボランティア活動に参加。
自分たちにできること
学校で動画を作り、PR動画を作り、SNSに投稿する。


LINK topos 2024 in IWATE 魅力WS グループC
メンバー 宮城大学 関本紗矢，大阪公立大学 中井菜那，
北九州市立大学 北川大晃，長野県立大学 山田悠貴
ブランディング
人
つなげる人
つくる人
つかう人
教育
お金
壁をなくす
知る
地域の伝統文化を継承していくために
[今] 私たちにできることは…
・地元について調べる。(自分が知らないと発信できない)
・体験する(食べる、使う、読む…)
・発信する(知ったこと・体験したこと・発想を発信する。)
小せんゾーン

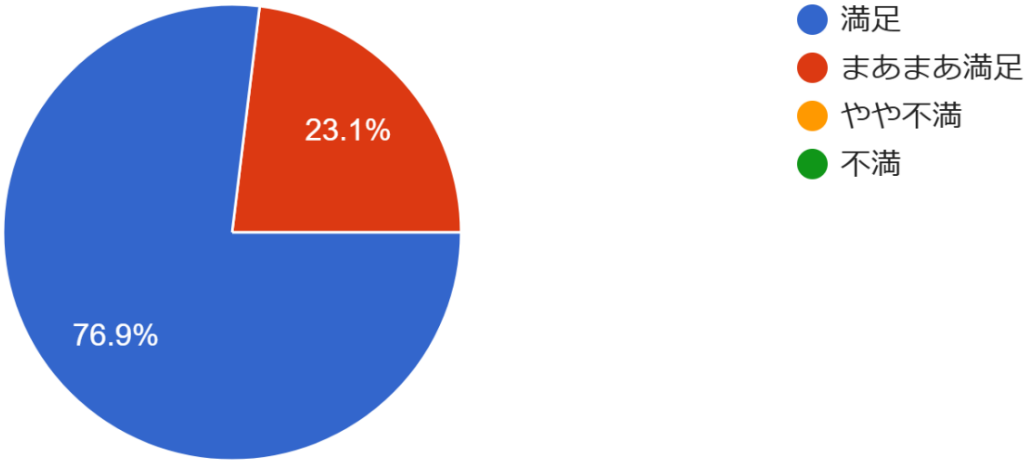


◎課題

参加者の声に「最後のワークでは盛岡での開催だからこその成果物に繋がっていなかったと感じた。」とあった。地元に持ち帰ってもらいたい思いがあったが、開催地でしかできないことも検討していく必要があるかもしれない。また、グループワークのまとめ時間が足りずに時間を延長した。バスの時間があり、終わりの時間は決まっているため焦らせてしまう結果となった。時間配分やスケジュールを余裕をもって決めるか、吟味して決めていく必要があったと思う。

4.2.5 満足度・参加者の声

【LINKtopos2024運営　新見公立大学　池本花梨】



13名の回答のうち、満足と回答したのは10名（76.9%）、まあまあ満足と回答したのは3名（23.1%）という結果になった。

◎参加者の声

【満足】

・貴重な経験ができてよかった。岩手県の伝統文化について学び、それを自分事に捉えて自分たちの地域と結びつけるワークショップが深い学びになった。

・今まで体験したことがない文化に触れることでその地域の文化や伝統継承の大切さを理解することが出来た。また、各々の地域の文化について触れることで様々な視点で物事を考えることが出来た。

・岩手の伝統文化や食についても体感することができ、とてもよかったです。時間がないなかでということもあり、さんさ踊りが短かったことは残念でしたが、それでも楽しく活動できました。最後のワークでもいろんな大学生の視点を知ることができ、おもしろかったです。出身や専攻がバラバラの人が集まることの意義を感じました。

・地元学生との合流ができて楽しかったです。

・もっと「さんさ踊り実行委員会」の方と話したり、さんさ踊りを知りたかった。

【やや満足】

・初めて藍染をできたことや、さんさ踊りをできたところがよかったです。しかし、時間に追われてて、さんさ踊りの時間が当初の1時間よりも短い20分間だったのでもう少ししたかったです。

・盛岡でしか体験出来ない伝統に触れることができて良かった。しかしながら、最後のワークでは盛岡での開催だからこその成果物に繋がっていなかったと感じた。

4.3　地元WS 「若者との交流による賑わい創出」

4.3.1 全体概要

【LINKtopos2024運営　岩手県立大学　福田睦晃】

◎概要

　岩手県では、人口減少など様々な社会課題に直面している。そのような中でも、地元・岩手を盛り上げようと、全国･世界で活躍する企業も多数存在している。全国各地から参加者が集まるこのLINKtoposを通じて岩手で活躍する企業やその取り組みについて学び、岩手を知り、そこから参加者自身の地元との比較をすることで、地元に持ち帰ってその学びを生かして欲しいという考えのもと盛岡市街地のまちあるきと商業施設monakaの社長の講演の後、課題解決型のグループワークを行った。

◎成果

　まちあるきをすることによって、参加学生が盛岡という街についてイメージを持った状態で講演を聞くことができ、その後のグループワークに際しても地域にはない外部の視点から創造的な提案をすることができた。講演では、地域の行政にも深く携わっているmonakaの大石社長からまちづくりを考える際の視点を知ることができた。グループワークによって、まちづくりと講演で得た知識をもとに自分たちなりのアウトプットができたのではないかと考える。ここで得たものをそれぞれの地元に還元していただきたいと考える。

◎課題

　参加者の学びと楽しみを考慮し考えた企画自体は良かったと思うが、まちあるきの時間不足、グループワークのイメージ共有不足などの課題があり、全体を通して実際に行う様子を具体的に考えることができていれば、参加者に対してもっと学びを深められるようなサポートができたと思う。また、毎回全員が会議に参加できるような状況ではなかったため、各自で欠席した会議について議事録を確認するなどし全員がしっかり情報把握をしておく必要がある。

4.3.2　monaka見学・まちあるき

【LINKtopos2024運営　岩手県立大学　三浦なつ】

◎概要

　約2時間で、グループごとに盛岡市街地のまちあるきと商業施設monakaの見学を行った。事前に配布したまちあるきのポイントの資料を参考に、訪れた場所ごとにグループ全員で撮影した写真を地元WSのオープンチャットに送信してもらった。また、当日開催されていた「北のクラフトフェア」の見学も行い、地域を盛り上げるイベントについても学ぶことができた。

◎成果
　ほぼ初対面の人といきなりグループを組ませての活動だったが、写真を撮るというアクションを付けたことで、交流を図りながらまちあるきを楽しんでもらえた。「北のクラフトフェア」が開催されていたため、各所に露店があり、店舗に入らずとも短時間で昼食をとることが出来た。事前にまちあるきのポイントを配付していたことで、見て欲しい箇所を参加学生に伝えることが出来た。

◎課題
　monaka見学･まちあるき･昼食で計2時間というなかなかタイトなタイムスケジュールにであったため、昼食をゆっくり取れないグループが生まれてしまった。また、まちあるきのポイントを配布したが、地元学生が少なく地理的知識が浅いことや時間が無いこともあり、当初の狙い通りに回ってもらうことは難しかった。講話に向けて、monaka見学を必須としたが、どのような視点で見るか(講話テーマとの関連性)を明確に伝えておくべきだった。

4.3.3　講演会(monaka支配人大石仁雄社長)

【LINKtopos2024運営　岩手県立大学　佐々木心】

◎概要
　盛岡劇場にて、2024年7月11日に盛岡市にオープンした複合商業施設「monaka」の管理運営をしている、株式会社モナカの代表取締役社長兼monaka支配人 大石仁雄様よりご講演をいただいた。monakaがオープンするまでの経緯やmonakaを通じて目指す盛岡のまちづくりについてお聞きした。

◎成果
　参加学生には直前のまちあるきの中でmonakaを見て回るよう指示をしていた。そのため、monakaについて知らなかった県外の学生でもイメージを持って講演を聞くことができたのではないかと考える。また、monakaが目指す「盛岡らしさ」とは何かや、「医・食・住・学」というまちづくりの新しい考え方を知り、後のグループワークでのヒントとなったのではないか。加えて、monakaのみならず城跡公園、紺屋町、内丸など周辺地域のまちづくりの取り組みについても教えていただき、盛岡中心地の近年の変化を広く知る機会となった。

◎課題
　もりおか歴史文化館前から盛岡劇場まで移動するのが大変だった。クラフトフェアが開催されていたため、街は多くの人で賑わっていて、歩道もすれ違うのがやっとの状況であった。その中をWS参加者全員で一斉に移動するのは難しいと感じた。

4.3.4 課題解決型グループワーク

【LINKtopos2024運営　新見公立大学　難波朱華】

◎概要

「若者との交流による賑わい創出」というテーマのもと私たち大学生が主体となって地域を盛り上げる企画を立案。まちあるきや大石社長の講演を経て地域の活性化やまちづくりについて得た知見をもとにグループで話し合い、成果物としてポスターを作成した。

◎成果

まちあるきをして実際に自分たちで盛岡のまちを知ることで学生が企画を考えやすかったと思う。衣食住になぞらえて様々な角度から生活の充実を図る新たな視点、学生だから紙の上だから思いつく自由な発想、住み慣れていない場所だからこそ気づくことができる県外の人ならではの客観的視点など様々な考えを知ることができた。ワークを通して学生の知見が広がったことはもちろん、大石社長にとっても学びになったと言っていただけた。

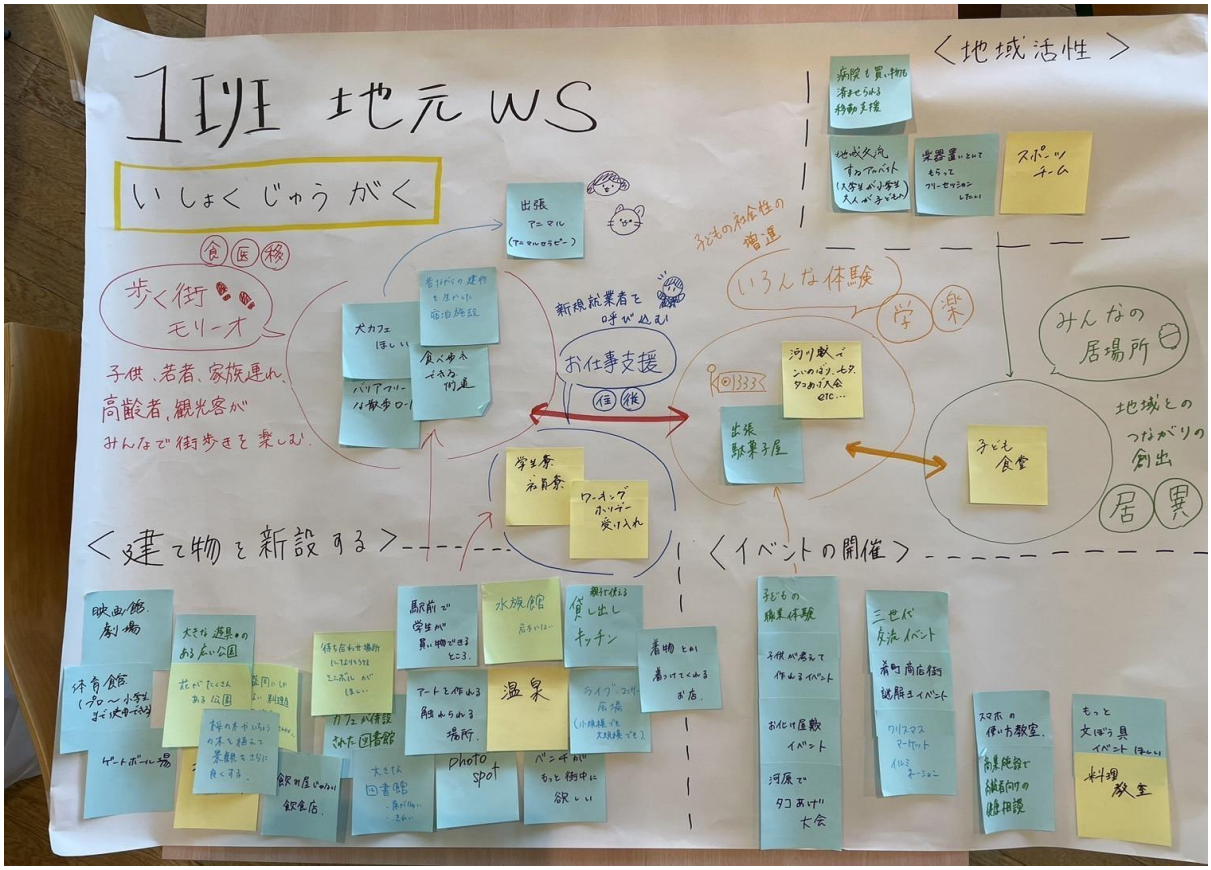
◎課題

大学生が主体となって地域を盛り上げる企画を立案するとテーマにあげたが、大学生が主体となるような企画ではなく、地域を盛り上げる企画へと趣旨が変わってしまった。テーマが上手く伝わっていなかったため、見本等作るべきだった。盛岡に焦点を当てて考えたため各自の地域性をあまり出す場面がなく、様々な県から集まった学生たちというLINKtoposならではの強みを活かせたのか、各自で地元に持ち帰って応用できるものなのか、など懸念が残る部分もある。

4.3.5 最終成果物

【LINKtopos2024運営　新見公立大学　難波朱華】

次ページにまとめる。


1班 地元WS
いしょくじゅうがく
食 医 移
歩く街 モリーオ
子供、若者、家族連れ、
高齢者、観光客が
みんなで街歩きを楽しむ
犬カフェ ほしい
バリアフリー化 歩道ロード
食べ歩きできる間隔
出張 アニマル (アニマルカラビー)
新規就業者を呼び込む
お仕事支援
住 働
学生寮 社員寮
ワーキングホリデー受け入れ
子どもの社会性の増進
いろんな体験
学 楽
河川敷でBBQ タコあげ大会 etc…
出張駄菓子屋
子ども食堂
みんなの居場所
地域とのつながりの創出
居 異
＜地域活性＞
病院も買い物に困ってる人の移動支援
地域交流 すわアルバイト (大学生が小学生 大人が子ども)
楽器置いておいてもらってフリーセッションしたい
スポーツチーム
＜建て物を新設する＞
映画館 劇場
大きな遊具のある広い公園
体育館 (プロ～小学生まで使用できる)
花がたくさんある公園
駅前で学生が買い物できるところ。
水族館 高齢者向け
貸し出しキッチン
着物とかあつかってくれるお店。
アートを作れる触れられる場所。
温泉
ライブ・コンサート会場 (1人演奏でも)
カフェが併設された図書館
大きな図書館 静かでいい。きれい
photo spot
ベンチがもっと街中に欲しい
＜イベントの開催＞
子どもの職業体験
子供が考えて作るイベント
おばけ屋敷イベント
河原でタコあげ大会
三世代交流イベント
着物 商店街 試験きイベント
クリスマスマーケット イルミネーション
スマホの使い方教室。
商業施設で健康相談
もっと文ぼう具イベントほしい
料理教室

「全ての世代が住みやすい街づくり」
交通手段
スポーツ
イベント
岩手山
着物レンタル物
リンゴフェスティバル
青森に負けてないこと アピール!!
中心地
monoha
若者も老人も楽しめる場
MORiO

3班

住み良いモリーオ

- WiFiがあって人の視線が気にならない自習…待合室
- 冬、陽がとれる場所
- 緑にスキマな集落
- 町の中心から見える位の場所の掲示板

居場所

学び

- 中高生がダラダラ過ごせる所
- 大学のサテライトオフィス
- 観光をおしゃれにする場所

移動

- トイレ
- 広くて歩きやすい道
- 気にしないせずにまち歩きを楽しめる所
- さんさんとのお買い物が見やすい場所
- レンタサイクル、電動もクロスバー
- LRT

移動のモデルを作ろう！

☆市民の移動方法を知る

- 歩数でポイント
- スタンプラリー

→ 行動の可視化

- 「市民の歩き方」をデータ化し、発信
- 物流、人流コストを最小限にしたスマートなまちづくり

4班

地元WS

<観覧車> モリーオを一望できる

<商業施設>

音がテーマの施設

<公園>

自転車の貸し出しスペースあり

<水族館のビル>

エレベーターで見れる水族館!!

<交流センター> 若者と高齢者の拠点

<競技場>

あらゆるスポーツができる

川

<年間スケジュール>

1〜3 モリーオの夜を彩るプロジェクションマッピング

4〜6 出会いの季節

7〜9 2泊3日スプリングツアー

10〜12 さあ集え!!ガチンコわんこそば大会

冬の芸術祭 芸術は爆発だ

便利化

交通系
- ライドシェア
- レンタサイクル

おじいちゃん、おばあちゃん

若い観光客が…

IT系

交流から情報化…→ 大学 企業 高校 商店 交流を促進!!

高齢者層のIT化……スマホ教室とかで覚えさせる!

インフラ・教育・地域活性化

期待できる効果

- 見えない部分の地産地消!!
- 幅広い層の人に楽しんでもらえる!!
- 町全体が密接にコミュニケーション取れる

暮らして楽しい町に!!

その他進化!!

- わんこそば街の和風化
- 音楽フェス
- 歴史を感じる町並み

プロジェクションマッピング!!

あの有名な、KANI-Book

…馬・人力車がいる町に

まとめ

- 新プロジェクト(テーマパーク)
- 交通インフラ・IT化による便利化
- 今あるモリーオの魅力の進化

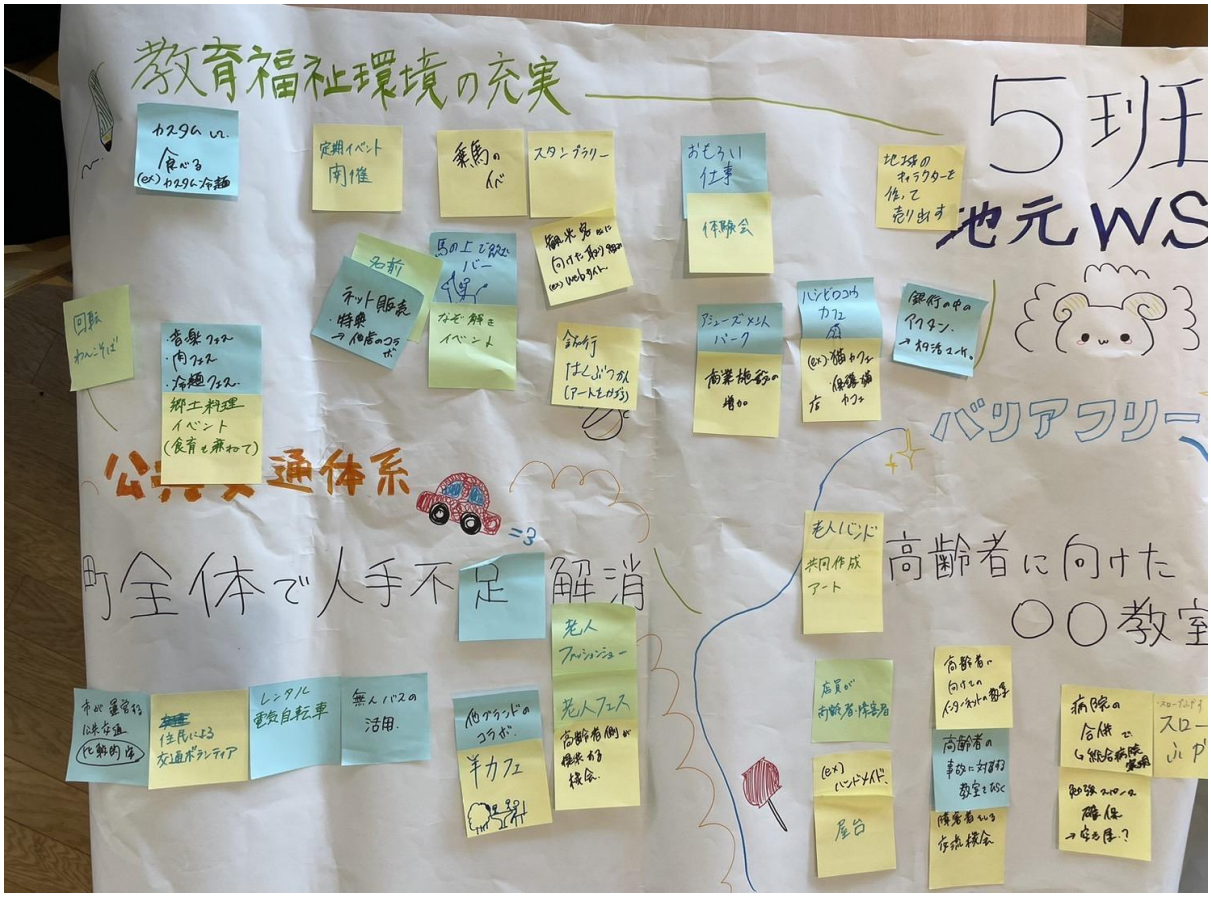
→

- 観光客の導線
- ~~暮らして楽~~
- 町全体のコミュニケーション導
- 町がキラキラに!

→

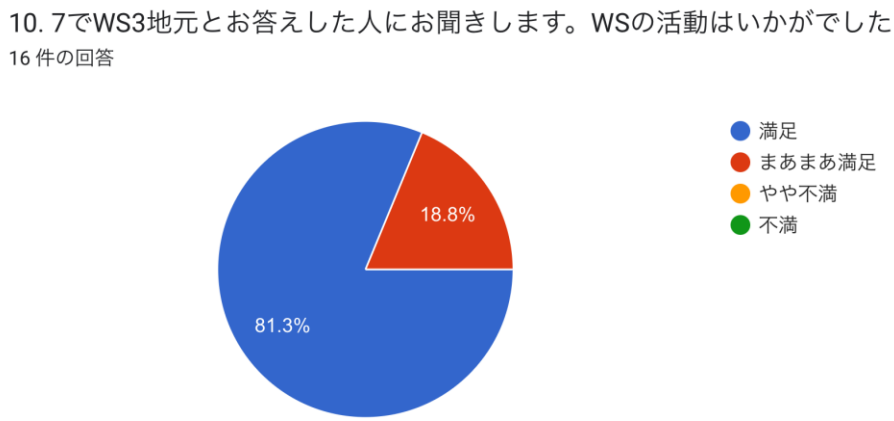
暮らして楽しい!観光して楽しい!!

世界から憧れられる夢のモーリーランドに!



4.3.6　満足度・参加者の声

【LINKtopos2024運営　長野県立大学　八重樫海斗】



◎参加者の声

・初めて盛岡に行ったのですが、凄く魅力ある街で楽しかったです！

・monakaの社長さんのお話が大変興味深かった。

・同じチームで1日を通して街歩き、話し合い等をすることで、色々な会話が生まれて、仲が深まった気がします💖

・盛岡の町を見る企画は自分たちで行く所を決められるのが良かったです。 社長の話やワークショップも自分にとってすごく良い経験になった。

・街歩きの途中で昼食も取るようにすると意外と時間が足りなかったと感じる。

5. 大会3日目

5.1 WS情報共有

【LINKtopos2024運営　新見公立大学　池本花梨】

◎概要

LINKtoposでは、震災WS、魅力ＷＳ、地元ＷＳの３つのＷＳに分かれて活動を行った。各WSの活動内容や学びを共有することで、開催地である岩手県及びLINKtoposへの理解や関心を深め、自己の成長に活かすことを目的に実施した。実施内容は各WS４分間の話を２ターム行った。事前に成果物の写真をとるように促したり、当日自己紹介から始めるなどこの日初めて話す学生同士の情報共有・交流が円滑に進むように工夫した。

◎成果

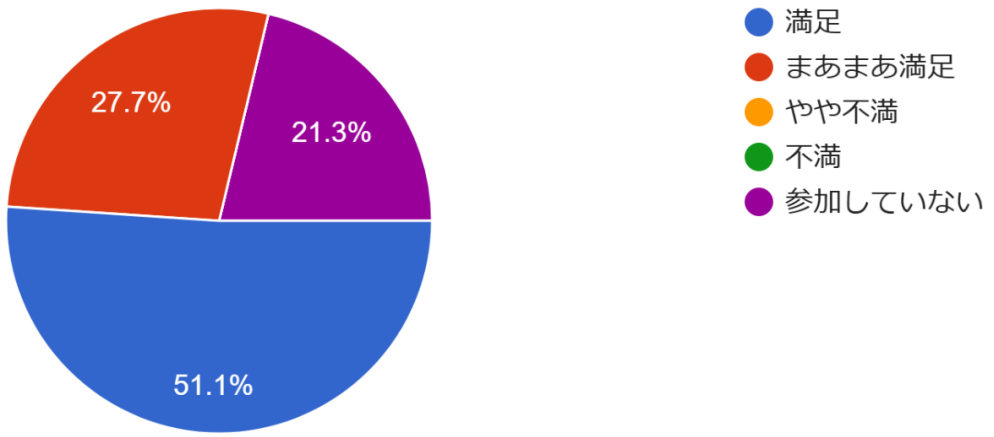
目的にあったように２日間であまり関わりのなかった他の公立大学生との交流を図ることができており、他学生との交流を喜ぶ声もあがっていた。また、それぞれのＷＳの学びを共有することで、多方向から岩手を捉えて、学びにつなげるきっかけとなった。他のＷＳの情報を知るだけでなく、言語化して伝えていくことで自己の学びの整理にも結びつき、深い理解につながったと考えられる。

◎課題

「時間が短すぎる気がする」「あと１，２回学生同士で話す時間があっても良かった」などの意見があった。学びを十分に伝えられるように時間を増やす、実施方法の検討などの工夫が必要であると考えられる。また、席順も当日バタバタしてしまったため、事前からの対策が必要であった。事前準備するためにも参加者の参加の如何について聞いておくべきであった。

満足度・参加者の声

【LINKtopos2024運営　新見公立大学　池本花梨】



47名の回答のうち、満足と回答したのは24名（51.1%）、まあまあ満足と回答したのは13名　(27.7%）、参加していないと回答したのは7名（21.3%）という結果になった。

◎参加者の声
【満足】
・行っていないところの情報を知ることができとても有意義な時間だった。
・他のWSの活動内容を知ることができて勉強になった。共有することによって学びあえることは素晴らしいと思った。
・多くの人と交流できて楽しかった
・グループメンバーの転換があり多くの人と関われたのはよかったですが、共有内容が繰り返しになるところがあったのと少し慌しかったので、メンバーは変えずに、1つのグ　ループでより深くお互いの情報共有をする時間にしてもいいのかなと思います。

【まあまあ満足】
・他の学生の話す力から学ぶことができた。もう少し時間があっても良いと思う
・他のWSの内容を2回に渡って知ることができてよかったです。
・他の人の活動の様子が知れて、どの活動も魅力的に感じました

5.2 3日目ポスターセッション
【LINKtopos2024運営　高知県立大学　石川紗羅】

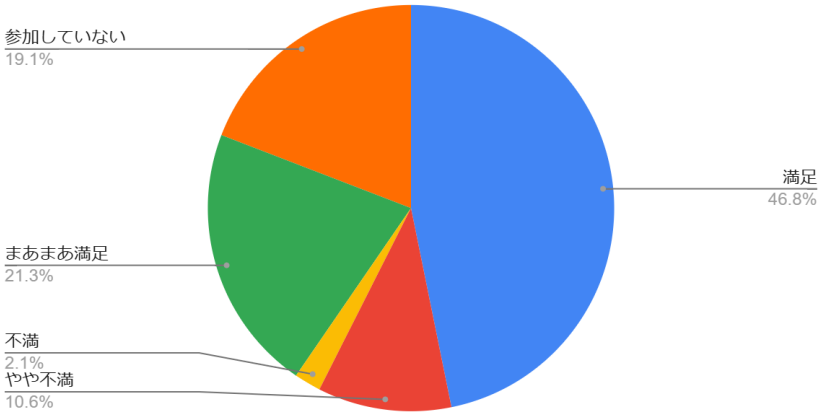
◎概要
大会3日目には、参加大学の各団体の活動紹介等を行う、ポスターセッションを行った。1日目と異なり、3日目のポスターセッションは各大学の学長にも活動の紹介をできる機会となった。実施内容としては、まず全体でそれぞれの団体のPRを30秒間で実施してもらい、各団体が準備したポスターの前に移動して、説明(7分)、意見交換(5分)を1ターム行った。

◎成果
各大学の学生の活動を他大学の学生に周知したり、知ったりする貴重な機会となった。また、1日目のポスターセッションとは異なり各大学の学長の参加もあったため、学生間だけでなく自身の大学や他大学の学長への活動のPRの機会となった。

◎課題
3日目の日程上、説明と意見交換の時間を1タームしか設けることができなかった。下記の参加者の声の中でも、時間が足りなかったといった旨の意見が多く見られた。
また、「ポスターセッションの前に約30分間時間があったのならば、フリーにせずもう少し有効活用できたのではないかと思う。」という意見もあった。運営上の不足もあったので、その点は改善すべき点である。

3日目ポスターセッション 満足度・参加者の声
【LINKtopos2024運営　高知県立大学　石川紗羅】

「3日目のポスターセッションはいかがでしたか」



「3日目のポスターセッションはいかがでしたか」という質問に対して47名の回答者のうち、「満足」と回答したのは22名(46.8%)、「まあまあ満足」と回答したのは、10名(21.3%)、「やや不満」と回答したのは5名(10.6%)、「不満」と回答したのは、1名(2.1%)という結果となった。

◎参加者の声
【満足】
・自由に回れる時間があったのでよかった
・他の大学の活動を知ることができてよかった。また、自分たちの活動を紹介することもできてよかった。
・学長さんや学生の方々に自分たちの活動を知らせることができてよかった。

【まあまあ満足】
・ほんとに興味のあるところ一つというところで自分がどんなことを知りたいのかなどを明確にできたのですごくよかったです
・しっかり伝えられた。
・人を集めるのが難しかった。

【やや不満】
・発表者が他の発表を初日含めて1回しか聞けなかった点が非常に残念だった。ポスターセッションの前に約30分間時間があったのならば、フリーにせずもう少し有効活用できたのではないかと思う。
・時間が短すぎて他大学の活動を全然聞けなかったのが残念だった。7分と聞いて話す内容を決めていたのに直前に変更があり難しい部分もあった。
・なかなかない機会なので、もう少し学長たちに見てもらう時間が欲しかった。

【不満】
・もっといろんな大学を聞きたかった。見れるものの数が少なく、とても残念だった。

5.3 学長とのランチミーティング

【LINKtopos2024運営　兵庫県立大学　田尻翔吾】

◎概要

10月14日から同15日にかけて岩手県立大学で開催された第1回公立大学学長会議及び第2回公立大学学長研修会に参加する各公立大学の学長を招き、昼食の席において学生との交流を図ったもの。学長や教職員に対し、本大会で学生らがどの様な体験をしたのか、また学生生活の話等をしてもらうことを想定したものであった。
ランチミーティングのコンセプト等に関して関係各機関との認識の齟齬が大きかったものの、グループ分けでなるべく地域ごとでまとめる等の工夫を行った。

◎成果

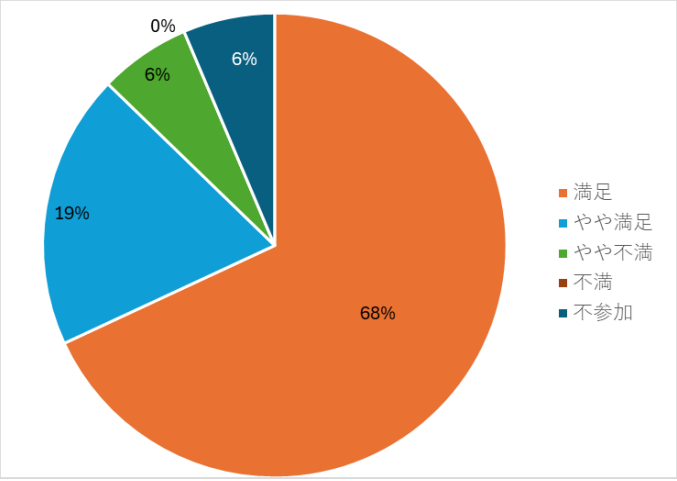
1日目、2日目と様々な経験をして学生らが盛り上がっていたこと、学長や教職員の方々も積極的に学生と交流してくださったことから、予想以上の盛り上がりを見ることができた。他に自大学の参加者がおらず、グループ内の参加者全員が違う大学の所属というグループもあったものの、各々の大学の様子を話すことで、盛り上がることができた。学長や教職員の方々も学生がLINKtoposを通じて楽しんで、多くの学びが得られたことを実感していただけたのではないかと考えられた。次回以降はなるべく同じ大学の参加者を被りにくくする方向での工夫が必要に考えられた。

◎課題

次節の満足度・参加者の声でも記述するが、不満点として、自大学の学長や教職員としか交流することが出来なかった為、新鮮味がなかったという意見や、他大学の学生や学長、教職員と交流したかったといった意見が主として見られ、ワールドカフェ方式の提案もあった。
元は他大学や他地域の大学の教職員と机を合わせる形になると学生が萎縮し、そこまで会話が盛り上がらないのではないかと工夫したつもりであった地域ごとや大学ごとでグループ分けを実施したことが裏目に出た形となった。
このことから今後の課題点として、より適切なグループ分けもしくはランチミーティングの方式の検討が必要であると考えられた。

学長ランチミーティング 満足度・参加者の声
【LINKtopos2024運営　兵庫県立大学　田尻翔吾】

Q.3日目の学長ランチミーティングはいかがでしたか。



回答者47名の内、満足したと回答したのは68%にあたる32名で、やや満足したと回答した9名と合わせると、87%と大半を占めた。
一方でやや不満という意見も3名あった。
◎参加者の声
【満足】
・普段話せない先生方と話せて面白かった。
・学長と話す機会は中々ないので新鮮だった。
・(グループごとに)机を離してもっと会話に集中したかった。

【やや満足】
・自大学だけで固まるのは少し勿体ないのではないか、難しいとは思うがワールドカフェ形式での交流も良いのではないか。
・学長と話す機会が得られたことで、今後自大学でも同様の機会が作られそうな流れが生まれた。

【やや不満】
・折角の場なので、自大学の学長や教職員だけでなく、他大学の方とも関わりたかった。
・帰校後学長へ報告に行くため、ランチミーティングで話しても新鮮味がない。

5.4 閉会式
【LINKtopos2024運営　岡山県立大学　阪田莉子】

◎概要
　閉会式では岩手県立大学学長 鈴木先生と公立大学協会会長 浅井先生からのご挨拶、LINKtopos2024学生代表挨拶、事務連絡、運営学生一人ひとり挨拶、全体写真の撮影という順番で行った。

◎成果
時間通り閉会式をはじめることができた。時間に余裕があったため急遽運営学生一人ひとりから挨拶する時間を設けた。全体写真では学生と学長先生方の弾ける「ピース」サインが撮影できた。これらの写真は「学長×学生の交流」の象徴となったであろう。

◎課題
　学生代表挨拶までが想定よりかなり早く終わったため急遽運営学生一人ひとりより言葉を述べる時間を設けた。ただ無茶ぶりだったため言葉がまとまらない学生や思いがあふれる学生もいたため結果として時間が押してしまった。

5.5 大会3日目統括
【LINKtopos2024運営　岩手県立大学　菅原ゆか】

　受付後、各ワークショップ間の情報共有や2回目のポスターセッション、学長とのランチミーティング、閉会式を行った。プログラムが始まる前から、運営学生は慌ただしく動き回っていたことが印象的であったが、最後まで大きな問題が起きることなく開催することができた。各ワークショップの情報共有をしているときは、互いにどんな学びを得たのか積極的に意見交換をしていたのを見受けられた。ポスターセッションのときから学長と交流する場面も見られ、1日目とは違うポスターセッションの雰囲気を味わうことができた。しかし昨年度と同様に、時間がもっとほしいという意見をいただいたため、企画を練る必要があったと感じる。ランチミーティングでは、会話が途切れてしまうのではないかという懸念があったが、実際は普段交流のできない学長と楽しく交流していた。運営学生の挨拶の際には、温かい拍手があり3日間無事に開催できたという達成感を感じた。この大会を通して、イベント運営の難しさを痛感し、運営学生1人1人の対応力に救われた3日間であったが、全ての「ピース」が揃ったときには、テーマへの愛が深まった瞬間でもあるだろう。

6　活動内容その他
6.1 オープンチャットの活用について
【LINKtopos2024運営 三条市立大学 菊田 大亮】

◎概要
　今年度も昨年度同様にオープンチャットを利用して運営学生をはじめ、参加学生・教職員に大会準備期間から大会終了後まで事務連絡を中心に情報発信を行った。オープンチャットは以下の2種類を作成し運用した。
・運営学生、企画委員の先生方、公立大学協会が参加しているオープンチャット
・運営学生、参加者、企画委員の先生方、公立大学協会が参加しているオープンチャット
◎成果
　多くの学生、教職員の方が「わかりやすい」、「まぁまぁわかりやすい」と　していた。大会準備期間や大会期間中に必要な情報を簡単に共有することができた。
◎課題

多くの参加学生から連絡が連絡が遅いといった指摘があった。また、今回宿泊した施設がインターネットやWi-Fiが入りにくい環境であったため、人によってはすぐに情報を確認できない状態が発生してしまった。
ただ、大会終了後も参加者それぞれが写真を上げていたり、連絡を取っていたりする場面を見るとオープンチャットの作成はよいものであったと考える。

6.2 SNSの活用について

【LINKtopos2024運営　福知山公立大学　清水彩華】

◎概要

今回、LINKtopos2024では去年度あまり動いてなかったInstagram、facebookをメインに情報発信を行った。LINKtopos2024のテーマ・目標、持ち物やWS紹介、参加学生・参加教職員募集に関して発信を行った。

◎成果

昨年度よりもSNS発信に力を入れる事ができたと考える。SNSにて発信を行うことでLINKtoposに興味を持ってくれた人が簡単に情報を手に入れる環境を作ることが出来たのではないかと考える。また、一目見て「見てみようかな」と思える投稿づくりを心掛けることが出来た。各WSの情報発信や当日に関しての注意などLINKtoposに参加を試みる人たちに向けて情報発信を行うことが出来たと考える。

◎課題

LINKtoposのInstagramやfacebookをフォローしていない人には情報が届きづらかったのではないかと考える。公立大学協会でも情報を発信していたがかなり調べないと情報が出てこな　いホームページの表記になっているため、公立大学協会のホームページにて「LINKtopos2024」の特設ページを作成することで多くの参加学生が情報を取得することが出来ると考える。
また、去年度に比べて今年はポスターセッションに関する情報が変更された。前回参加した参加学生にとっては同じ形式でポスターセッションやポスターに関するデータの送信を行う　と捉えている人がいた。SNSだけでなく、メールや公立大学協会のホームページを活用し、情報の詳細を詳しく丁寧に伝達する必要があったと考える。来年度以降、ポスターセッションを行うのであれば、情報共有や情報発信に力を入れていく必要があると考える。

6.3 プログラム全体を通して

【LINKtopos2024運営　岡山県立大学　阪田莉子】

◎概要

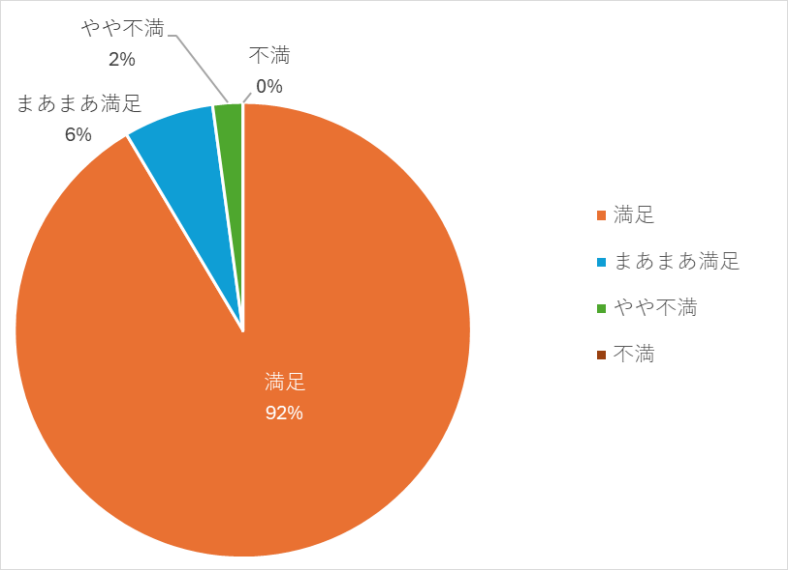
大会は３日間行った。学生×学生、学生×学長と例年よりさらに交流する機会が多い大会となった。交流を通じて互いの地域活動について、開催地「岩手」に対する理解を深めた。

◎成果
　満足と答えた学生・教職員が92%を占めた。学生間の交流、充実した活動などプログラムの企画に関して高い評価を得ることができた。

◎課題
　今大会のプログラム内容は高い評価を得た一方で、運営体制に関して不満の声があった。今後は運営学生間での情報共有の在り方について検討しなければならない。

プログラム全体の満足度・参加者の声
【LINKtopos2024運営　兵庫県立大学　田尻翔吾】

Q.　全体を通していかがでしたか。



全体を通じた感想を尋ねた結果としては、47件の回答の内、満足とした回答が9割を超える43解答、やや満足とした回答が3件、やや不満とした回答が1件存在し、不満とした回答は無く、概ね満足したとする回答であった。

Q.全体を通した感想を教えてください。
【満足】
・準備を急いだり予定を変更したりした場面もあったが、全体を通じて有意義な学びが多く生まれた大会になったと感じた。
・普段関わらないような人たちと繋がりをもてた点が一番の実りだと感じた。来年もぜひ参加したい。
・参加する前は大学に言われたからという理由であまり乗り気ではない部分もあったが、参加してみると様々な地域の大学生との交流や岩手ならではの体験、学びが詰まったとても身になるもので参加できてよかったと感じた。3日がとても早く過ぎてしまったように感じ、それほど充実した時間を過ごすことができたのだと思う。LINKtoposを通じて出会った縁を大切にしていきたいと感じた。また、学んだことや思ったことをそれで終わりにするのではなく発展、拡散していけるように今後の学生生活を過ごしていきたいと思う。

【やや満足】
・″1日目は、運営の準備不足感をかなり感じた。初めて会った学生だったが、属性が似ているからか皆優しく話しやすかった。野外炊事では、学生先生関係なく、学部やサークル活動などその人の興味分野がわかる話をすることができたことで仲良くなれた。
2日目は、運営の場所選びがすごくよかったことで、かなり深い学びができた。最後のまとめ作業も知識のアウトプットになりよかった。途中の遠野駅の滞在時間は短かったが楽しめた。
3日目は、ワークショップ毎の情報を聞くことができて嬉しかった。ポスターセッションでは、学長らが相手ということや、説明学生の慣れもあり、質が1日目より上がって有意義な意見交換ができたと思う。最後のバスの見送りが短時間でこんなに仲良くなれたんだという思いから、少し悲しかったが、それ以上にとっても楽しかった。
リンクトポスが終了した後も、今日まで連絡し合っている人がいる。いい学びと出会いがあったイベントだと思った。″
・友達がたくさんでき、とても楽しい時間を過ごせました。連絡が遅かった。ただ、連絡が全て直前すぎること、必要な情報が届いていない状態が続きとても困りました。
・開催当日まで分からないことが多くあったため、運営学生と参加学生で目指しているものに違いがあると感じました。また、開催中も入念にミーティングを行い、より良いものを作りだそうとしてくださったことに関してとても感謝していますが、それが運営学生と参加学生の間に壁をつくる結果にも繋がっていると感じました。そのうえで本大会では全体的に報連相の部分に課題があると感じました。運営学生の皆さんが長期間、長時間かけてプログラムを組んで下さったことは理解しています。しかしながら、その努力や頑張りは伝わらない事が多いので、今ここを決めている、ここに詰まっているなどを気軽にそして継続的に伝える環境(今回であればオープンチャット)を早期につくることが大切だと思いました。頑張っていることが伝われば進行している中でトラブルが起こっても応援してくれる人は多くいると思います！

【やや不満】
・運営の方の情報共有や全体的な統制、運営間でも噛み合っていない部分があったことから参加者は困惑する時が多かったので、来年度以降みんなが楽しめるように改善していただきたいです。

6.4 大学からの補助について

【LINKtopos2024運営　兵庫県立大学　田尻翔吾】

◎概要
　今大会においては東北から九州にかけて17大学70名の参加者が岩手に集まったが、アンケート回答者47名の内74%にあたる35名が交通費・宿泊費の全額もしくは一部の補助を大学から受けていた。
詳細については3.7.1に詳しいが、昨年度に比べて全額支給の割合が大きくなっていた。
一方で26%にあたる12名は補助を受けておらず、全額自費での参加となっていた。

◎課題

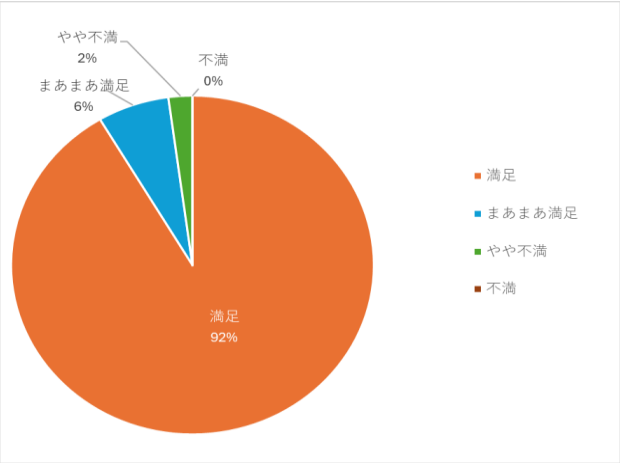
今大会においては学長会議との併催を前提に開催地と日程が設定された関係上、後期期間が始まっている上に三連休と、なるべく前後の講義を休まずに済むよう工夫しつつ、高額となる交通費や３次募集の学生等、盛岡市内での宿泊を選択した学生は必然的な負担額の高騰が問題として存在した。

しかしながら、LINKtoposは「全国公立大学学生大会」の名の通り、全国の公立大学生が一堂に会することによって初めてその意義が大きく発揮される大会である。
このため、なるべく広範囲からの公立大学生の参加を募りたい一方、学生によっては長距離移動を強いられること、金銭的都合から参加を見送る事例も少なくない。
そのため、支援上限額の設定や、上限人数の設定等により、学生の負担を大学側からも無理のない範囲であっても減らすことでより多くの大学からLINKtoposに参加できる学生が増えることを願う。

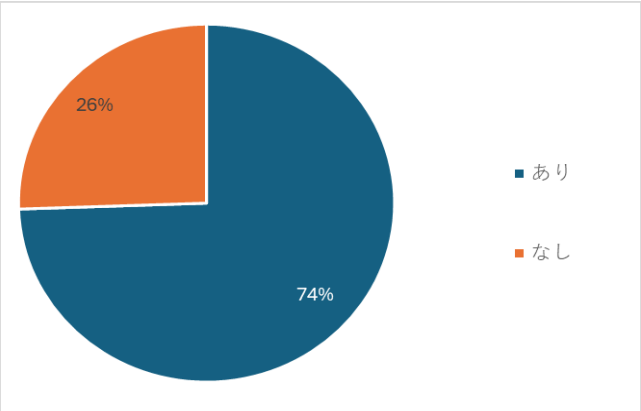
大学からの補助に関する参加者の声

【LINKtopos2024運営　兵庫県立大学　田尻翔吾】

◎本大会に参加するにあたっての大学からの支援の有無

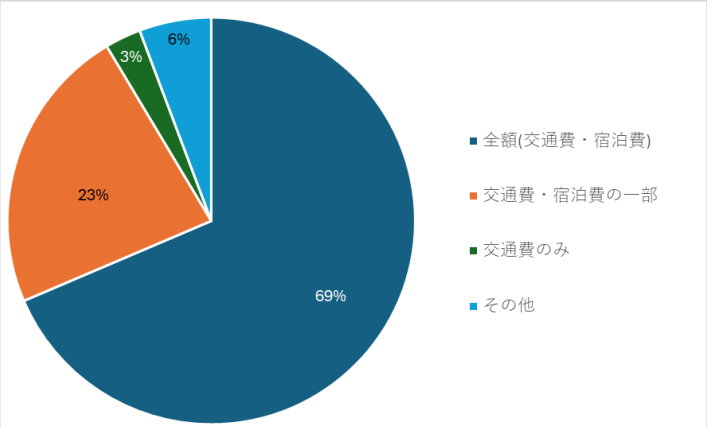


Q. 本大会参加にあたって、交通費や宿泊費等、大学からの補助はありましたか。



回答者47名の内、大学からの補助があったとした回答は74%にあたる35件あった。
一方でなかったという回答も26%にあたる12件あった。

Q.″あり″と答えた方にお聞きします。補助はどの程度ありましたか。



支援ありとした35名の内、69%にあたる24名は交通費・宿泊費の全額支給を受けていた。また交通費・宿泊費の一部を支給されたという事例も、23%にあたる8名いた。また交通費のみ支給の事例については1名、その他の事例が2名いた。

◎交通費・宿泊費の一部とその他の回答について

【交通費・宿泊費の一部】

・支払った額の半額

・全体で4万円の補助

・交通費は全額、宿泊費は1日9800円上限で支給(盛岡市内のホテル泊)

・5万円上限

・前泊ホテル代、交流の家宿泊代・レストラン代、WS参加費、野外炊事費、交通費が支給されたが、3日目ランチミーティングのお弁当代は実費。その他も申請次第で食費に関して実費になるものもありそう。

・上限5万円

・交通費(新幹線、電車、バス)全額、宿泊費(上限9800円/泊)

【その他】

・4万円

7.　次年度以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言

【LINKtopos2024運営　福知山公立大学　清水彩華】

ここでは、運営メンバーの間で出た意見を元に、運営に関する課題について４点述べる。

まず、1点目は公立大学協会・運営学生・企画委員の先生方・開催大学の先生・学生間における情報共有を綿密に行えていなかったことだ。本番が近づくにつれ各々が知っている情報の量に差があったことが明らかとなった。その原因としてGoogleドライブを公立大学協会・運営学生・開催校 岩手県立大学の佐々木さん以外の人が見れないようになっていたからだと考える。これらの理由により把握している情報量の差に繋がったのではないかと考える。また、運営学生内でも把握している情報の質に差が見受けられた。そこには「Googleドライブのどこに何の情報が管理されているのかが分からない」という理由があるからだと考える。昨年度の沖縄開催でも運営学生内で同じような課題があったからこそ、来年開催するのであれば『情報整理・情報管理・情報共有』に力を入れてほしいと願う。

2点目は、参加者や運営学生の辞退・変更に関して・金銭面に関してである。
今回の大会では参加に関する辞退や変更に関しての期限を設けていなかったため、本番数日前や本番当日に変更・辞退・参加の申込みが募った。各WSやポスターセッションなど本番間際での変更は金銭面や情報把握など様々な面にて支障をきたすため、参加に関する変更などは、「大会二週間前まで」と期限を設け対応することが大切だと考える。

3点目は、情報に関してだ。ここでは主にLINKtoposに関する情報発信・データの保存・共有方法に関して述べる。まず情報発信に関してはSNSなどで情報発信をしたことは良かったが１つ１つの情報発信が遅かったと考える。正確な情報を提供しようと試みたためフライヤーの情報解禁など全部、確認や許可を取ってからの情報発信になったため想定よりも時間がかかった。正確な情報を発信することももちろん大切だが、少ない情報でも良いから情報を逐一参加者に発信することが大切だと感じた。次に、データの保存・共有方法に関してはGoogleドライブを用いて情報を保存し共有を行っていた。だがGoogleドライブのどこに何の情報があるのかが明確になっていなかったため、次年度ではファイル分けを的確に行い、全運営学生や公立大学協会、主催大学の先生方、学生、企画委員の先生方など全員で均一な情報把握を行うことが大切だと考える。

4点目は、現地運営学生・参加学生の募集に関して述べたい。今年度は昨年度に比べて現地学生がいなかった。幸い運営学生の中に主催校に在学している学生が数名いた為、対応してもらうことが出来たが、来年度は現地学生の募集に力を入れることが大切だと考える。現地学生だからこそ実際に使用する会場の様子を偵察してもらったり、まち歩きをするのであれば現地の良さや魅力を考えてもらったりまち歩きを現地学生主体でに行ってもらえるのではないかと考える。運営学生と現地学生で情報共有しながら役割を決めてLINKtoposを作り上げていく事が今後必要になってくるのではないかと考える。
参加学生の募集に関しては今年度は募集を行った時期が長期休みと被ってしまったため多くの人に告知することが難しかった。またSNSもInstagramとFacebookのみの活用となったため、LINKtoposのアカウントをフォロー又はチェックしている一定層の人々にしか情報を伝えることができなかったように思う。来年度は情報発信に力を入れ参加学生を募ってほしい。

8.　全国公立大学学生大会の今後の展望について

【LINKtopos2024運営　岡山県立大学　阪田莉子】

LINKtopos12回目の開催はLINKtopos始まりの地【岩手】にて行うことができた。ワークショップ、レクリエーションでは参加学生が岩手の自然を感じ歴史や文化に触れることができた。例年の大会と大きく違った点は「学長会議との併開催」である。大会3日目ではポスターセッション、ランチミーティングを開催し、学生同士だけでなく学長との交流も行い、自身の活動について学長先生方から意見をいただく貴重な機会になった。一方で反省点も多くある。来年度以降、さらに良い大会へしていくために反省点を改善していく必要がある。以下、2点今後の展望について述べる。

①より多くの学生に参加してもらうために情報発信に力を入れること

LINKtopos2024では参加した大学数・参加者数が昨年度開催した沖縄大会に比べ減少した。また2013年の岩手大会に比べても大学数・参加者数が少ないという結果となった。考えられる要因は情報の発信する時期と頻度である。参加申し込み期間、参加学生の負担金額について、プログラムなど学生がLINKtoposに参加する上で知りたい情報の発信がかなり遅くなった。そのため、そもそもLINKtopos2024を開催することを知らない学生がいた。また参加申し込みしたものの、いつ・どこで開催するのか、金額はどれくらいかかるのか、大会直前まで分からず参加する学生や教職員の皆様に対して不安を与えてしまった。参加申込期間に関して当初の予定では夏季休業前に行うはずだった。しかし大会の企画で難航したため夏季休業に入ってから参加募集をかけることになった。１人でも多く参加者が増えてほしいと思い、参加申し込み期間を９月末まで延ばした。結果は大会直前まで人数が確定せず、岩手山青少年交流の家やランチミーティングで注文するお弁当屋さんなど各方面に対して迷惑をかける形となってしまった。

大会参加申し込み期間は夏季休業前に行うこと、申込期間終了まで大会の開催場所・時間・参加者の負担金額など情報を随時発信すること、参加申し込み期間終了のタイミングは大会開催日の１か月前など余裕を持たせること、これらを意識していただきたい。来年度以降多くの学生や教職員に参加していただけるよう願う。

②情報共有の仕方を確立すること（開催校-企画チーム先生-公立大学協会-運営学生の四者連携の強化）

参加した学生や教職員に対して大会の場所・時間・金額等重要な情報についての連絡ができなかったことは①でも触れたが、情報の開示が遅ければ大会運営に対する不信感を抱かれかねないため、来年度以降は気を付けていただきたい。

情報を発信するためには情報を発信する私たち自身が情報を把握しておくべきである。昨年度と同じく今年度もGoogleドライブを用いて企画書や予算書等のデータを管理したがこの管理方法を見直すべきだ。更新前のデータと更新後のデータが煩雑にある、異様にデータファイルが多い、データをアップロードした際に連絡がないため認識にずれが生じるなど問題が多発した。

古い情報のデータは破棄、ドライブのデータ更新後は必ず連絡を入れる、各々のタスクを明確化する、これらに気を付けていただきたい。昨年度もGoogleドライブのデータ管理に関して課題が挙げられていた。来年度以降はGoogleドライブのデータ管理方法について確立

し、運営学生全員が大会運営に関して同じ理解量である状態にすべきだ。情報を発信する私たち自身が情報を把握しきれていなければ、参加者側にも正しい情報を発信できないため気を付けていただきたい。

　来年度以降の大会がさらに素敵な大会になることを、心よりお祈りいたします。

9.　謝辞

令和6年度全国公立大学学生大会LINKtopos2024の開催にあたりまして、的確なご指導と温かいご支援をいただきました、企画チーム専門委員の先生方、公立大学協会事務局職員の皆様、そして会場の提供と運営に協力していただきました岩手県立大学の教職員の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

LINKtopos始まりの地『岩手』にて学長と学生が交流し盛況で終えることができ運営学生一同幸甚の極みです。このような大会を開催できましたことはひとえに参加してくださった学生・教職員・学長の皆様のご協力とご理解のおかげです。

改めて、今大会開催にあたりご尽力いただきました全ての皆様へ心より御礼申し上げます。有難うございました。

令和6年度公立大学学生ネットワーク
代表　岡山県立大学3年　阪田莉子

10.　公立大学学生ネットワーク運営学生　名簿

	役職	大学名	学年	性別	氏名
1	学生代表	岡山県立大学	3年	女性	阪田 莉子
2	副代表	福知山公立大学	3年	女性	清水 彩華
3	事務統括 WS震災代表	三条市立大学	4年	男性	菊田 大亮
4	企画統括	岩手県立大学	3年	女性	菅原 ゆか
5	広報 WS地元代表	岩手県立大学	3年	男性	福田 睦晃
6	WS魅力代表	高知県立大学	3年	女性	麻岡 里光
7		岩手県立大学	3年	男性	名取 巧翔
8		新見公立大学	4年	女性	池本 花梨
9		福知山公立大学	2年	男性	前田 海翔
10		岡山県立大学	3年	男性	藤井 大樹
11		高知県立大学	3年	女性	石川 沙羅
12		新見公立大学	4年	女性	平松 萌々子
13		兵庫県立大学	4年	男性	田尻 翔吾
14		北九州市立大学	3年	男性	宮井 建
15		岩手県立大学	2年	女性	佐々木 心
16		岩手県立大学	3年	女性	三浦 なつ
17		新見公立大学	3年	女性	難波 朱華
18		長野県立大学	3年	男性	八重樫 海斗
19		山口県立大学	3年	女性	小山 瑞季